(十六)冬季間牛馬飼養に用する雑草は七月頃より刈り始め可成干燥するを要す又兵舎の周囲に防風雪の爲め外垣を設くるに要する雑草は九月中刈り取るものとす但し外垣用の木材は初度各兵舎に一通り備付け爾後流木を以て永續方を計るものとす

(十七)各諸島の田漁兵建物は概略左の如し

(一)兵舎　一棟　但し炊爨浴室共含有

(二)捕獲品及び糧食格納倉庫　一棟　但し鼠害豫防の爲め可成床下を充分高くするを要す

(三)兵器彈藥及び諸器械格納倉庫　一棟

(四)捕獲品干燥雨覆場　一棟　但し夏季間濃霧多き爲め日干するの日甚だ少なし故に此の一棟を要す又此の一棟の一隅を以て冬季間の牛馬厩に充つるものとす而して此の一棟は唯雨覆なる爲め兵舎に外垣を設くる際同樣周圍を雑草にて閉塞なし牛馬飼料の雑草及び端船其の他の物品を格納するものとす又周圍閉塞に要する木材は兵舎外垣木材同樣初度備付くるものとす

(十八)千島沿海々獸の識別概畧左記の如し

(一)海豹は頭部のみ水面に浮出し數分より數十分間游行するものなり其の頭部の容ち犬に似て稍圓顱あり而して全体の長さ小なる部は凡そ三尺位にして重量十貫目餘最大なる部は凡そ五尺位にして重量四五十貫目餘あり大小共頭部に命中すれば一彈にて容易に斃るゝなり然れども迅速端船を漕ぎ死体を引揚げざれば沈没するに至る海豹の皮は概して錢紋したる濃青色なり余等擇捉及び占守越留中大小の海豹數十頭銃獵せり

(二)海馬、海獺は巣窟たる岩礁附近に游泳しあるときは海豹と全く頭部のみ浮出するも巣窟を離れ游行するには必ず彼の入鹿の如く群をなし交互頭背を彼狀樣に浮現し鹽水を吹出しつゝ縱横するものなり海馬海獺は小なる部も海豹の最大なるもの位ありて其の最大なるものにありては三四間の長さにして重量又百貫目餘あり故に銃丸假令頭部に命中するも三四發以上に非ざれば到底斃すこと能はず且つ海馬海獺は斃死後即時に沈没するゆへ勤めて巣窟たる岩礁上に横臥し居たるものを銃獵するを要す海馬海獺の皮は概して粗厚なる薄赤色あり余等エカルマ島巣窟岩礁上にて銃獲したる海馬は長さ凡そ四間餘ありし

(三)肭臘臍は其の大さ殆んと海豹位にして頭部は稍長方形なり水面に浮出するには頭部より肩部位迄にして數分間其の容を存せり又斃死後數分間浮みあるも可成迅速引揚ぐるを要す且つ肭臘臍は修夜餌食を貪ぼるに汲々たるものなれば晝間腹部を海面に出し熟睡し乍ら浮流するものなり肭臘臍の皮は無紋黑色の柔毛なり余等新知島沖合に於て銃獵したる臘肭臍は長さ三尺餘ありし其の他十數隻の密獵外船に就き第問の際目擊したる臘肭臍生皮は數千枚なりし

(四)臘虎は巢窟附近に浮游しあるときは臘肭臍の如くなるも游行のときは海馬海獺と同樣頭背を交互波狀樣に浮現するものにして全体は臘肭臍と畧々同一なり又乳哺兒を腹部に抱き仰向ち乍ら游行し居れり

(十九)充分探檢實査の上硫黄採掘の爲め北海道樺戸集治監を千嶋諸島中或る一部に移轉するを要す

(二十)千島警備田漁隊設置密獵賊船撲逐の上は千島沿海に於ける臘虎臘肭臍の繁殖を計るを要す

(二十一)千島島廳及び警備田漁兵の經費は漸次千島海産物産の收入を以て支辨するを要す

(二十二)千嶋に於ける事業は坐上水棟的空論に惑はずして百聞一見に如かざる實際的に依るを要す

(二十三)千島の事業は劈頭第一着手に彼の密獵賊船なる妨害物を驅除せざれば到底着手するも無効なるものとす故にその妨害物たる賊船を驅除するの妙策は警備田漁兵配備の緊急を必要とす尚將來幾十百年の後ちには純然たる對島警備隊の如きものを必要とすべきは勿論にして彼の燈臺の如き石炭庫の如き砲臺の如き或は軍港迄も千島に開設するの要あり然れども此れ等の諸件は現時の千島强て企望せざるなり唯千島の今や血涙を濺ぎ斷腸の悲憤に忍び天を仰ぎ長大息なしつゝ渴望しあるものは千嶋の身邊に圍繞して血涙を搾取するのみならず既に皮肉を喰裂し將さに骨髓に入らんとしつゝある密獵賊船なる害虫の驅除を哀訴歎願するの切なるにあり故に千嶋現時の一大緊急事業は警備田漁兵設置の實行にあり拓殖移民の如きは漸進主義を取るも決して遲きに非ざるものとす

(三十) 死亡屆

杜川延三　御園生龜三郎・山本敏

右三名明治廿八年三月六日及び同年四月十一日幷に同年同月十日より水腫症に罹り爾後の經過杜川、御園生の兩名は甚だ不良にして漸次衰弱に陥り山本は頗る善良なりしも俱に藥餌其の効なく遂に三名共同年四月十九日午前第一時及び同年五月七日午前第九時五分幷に同年同月十二日午後第十一時死去に付別紙發病始末書添付此段屆出づ

但死体は腐敗糜爛の爲め五月廿四日雪融けの期を待ち埋葬せり

明治廿八年十月七日　於擇捉　白瀬　亟

發病始末書

（杜川延三、御園生龜三郎、山木敏）以上三名死亡者

（白瀬亟、葛原益吉）以上二名生存者但し葛原は神經重症

右之内杜川延三は元來腦病症なれども占守渡嶋以來別段身体上異變なさのみならず頗る強壯健全なりさ然るに冬季蟄居の候即ち明治廿八年一月頃より食慾頓に增進し爲めに聊か胃を損せしものと自ら悟り爾後過食を謹み健胃下腹丸を服し專ら療養怠らざりさ且つ蟄居間天氣晴朗なる日に在ては郊外を逍遙し或は丘陵を跋渉して身体の運動を皷舞し居れり同年三月四日に至り例の如く運動の爲め壓沒の積雪を蹈破して艸廬南方の丘陵に昇り凡そ二時間を經て歸廬せり然るに翌五日に至り腰部及び兩股等大に膨脹し且つ頗る苦痛を感せりと同六日より病褥に就けり夫れより漸次食慾減耗身体愈〻膨脹を增加し遂に胃部、腹、背、手足、陰莖、陰囊悉く腫れ上り苦痛益々甚しく身体日を逐ふて衰弱に陥り食慾愈々減じ來れり此の際寒威酷烈吹雪狂亂の折柄なれは滋養品たる鳥獸等絶へて獲る能はず唯粥と澤庵とを食せしめたるのみ然るに同人は廿七年十二月七日勉學の都合に依り蠶の艸廬に來り蠶と同居せしも元來蠶住居の艸廬は外四名住居の艸廬に比し大に寒冷の方なり故に病者の爲めにハ甚た害毒の嫌なさにしも非るものゝ如し況を以て同人も病勢日々に篤疾に赴くを察知し他四名の艸廬に移居し療養致さんとの存念にて廿八年三月十四日他四名の艸廬に移居せり然れども既に衰弱に陥りたる身体なれば容易に强健なる能はず爾後の經過甚た不良にして漸次篤疾に進み遂に廿八年四月十九日午前第一時永眠不歸の客となり了れり

加之同年四月七日に蠶同年同月九日に山本同十一日に御園生の三名漸次水腫症に罹り病褥に臥す三名の病狀容体杜川と殆んと異なるなし特に御園生の如さは苦痛大に劇甚尿尿も褥中便器を用ふるに至れり食慾全く減耗發病より死期に至る其の間殆んと氷、雪、麥湯の類及び希に飯湯、粥等を僅かに啜りたるのみ呻吟煩苦遂に同年五月七日午前第九時五分死去

し了れり次に山本は發病後一週日頃は頗る重症にて殆と絶食の有様なりしも爾後の經過頗る快方に赴き死期一週間前頃に在ては殆んと快癒せしもの〳〵如く身体の膨服大に減却し食慾頗る增進し氣分甚た爽快なる山自ら物語り或時は戸外を散歩し最早數日後は病褥を徹せんと迄喜び居たるに圖らざりき死期四日前即ち五月十日に至り俄然劇甚ある差込來り煩悶苦痛殆んと知覺を喪失するに至り凡そ三十分間にして稍治まりたるも爾後全く知覺を失ひ死に至る迄絶食、無言褥中に放尿晝夜を分たず四日間全く睡眠するに至れり其の死去の當日に至り夕刻より二三回連續差込來り稍苦悶の有様にて遂に當日即ち五月十三日午後第十一時死去し了れり、蠱は發病後一週日間は病勢頗る劇甚なる爲め全く絶食唯氷と雪及び水とのみ飲食し居りしも愈々苦痛を增し來りたる故熱渴を制し斷然氷雪水の飲用を絶ちたるに爾後稍食慾進み來り漸次日を逐ふて快方に起き命數の未だ盡きざる爲めか万死に一生を得同年六月一日全く快復に至れり葛原は山本死去の翌日より神經症に罹り顏色憔悴殆んど死に頗し蠱及び關に對し遺言をなせしも漸次快方に赴き擇捉紗那へ歸航後即ち廿八年十月に至り全く快癒せり以上五名の發病始末概略上來の如し

明治廿八年十月七日

於擇捉紗那　白瀨　蠱

明治廿六年五月より同廿八年四月に至る間に於ける千嶋諸島にての遭難病死者三十二名諸氏の姓名左の如し

第一回　青森縣下鮫港近海端艇覆沒難死者は皆海軍水兵の滿期者にして總員十九名木南正照、西村長五郎、壬生義正、小野新藏、及川六之助、池上善次郎、秋山金藏、印牧健六、坂本周吉、大久保重次、森山小一郎、西山助次郎、川上卯之助、江島影喜、須藤與四郎、小田福次郎、岡村安吉、鹽田治助、中川仁助

第二回　越輕磨島死亡者は五名にして鶴島久次郎、島村金一、中村重吉(以上水兵)堀江彪(壯士)木村佐吉(陸兵)

第三回　拾子古丹死亡者は四名にして目黒廣吉(歩兵)井上儀三(歩曹長)田中留吉(醫學生)高橋傳五郎(耶蘇宣教師)

第四回　幌藻後島單身越年者和田平八(希臘教信者)

第五回　占守穴居死亡者は三名にして杜川延三(大坂神戸商業學校卒業生)御園生龜三郎(千葉農)山本敏(水戸藩士)

以上三十二名死亡諸氏の爲め毎月廿四日占守島穴居艸廬内佛前に於て蠱の朗讀したる非二

名死亡諸氏の吊魂文は左の如し

逝て還らざるものは生死の別なり音容空しく歸し隔て通じ難きものは幽冥の路なり朝に砂濱に立て遙に蒼溟を瞰めば唯水天彷彿碧波渺茫たるのみ夕べに丘岡に登り仰いで天宇を瞻れば唯遼遠幽邃寥漠々たるのみ天に訴へん乎天は遠くして雲迢々地に告げん乎地は靜にして風蕭々嗚呼天地共に受けず止んぬる哉諸氏の怨恨孰れにか歸せん寒月清冽として山川寂寥たり夜は正に長うして風淅々たり魂魄彷徨して天沈々たり怨鬼聚て雲漠々たり朔風强うして寒雪凜冽たり心を傷め目を慘ましむるもの夫れ諸氏の死乎今や諸氏と蠱とは生死の別なり再び音容に接するの期なき商參たり嗚呼諸氏遭難當時の慘狀を懷想すれば悲哀の情慼悼の念皆嗚を斷つの媒介たらざるはなし夫れ海霧溟濛咫尺を辨せず雲雨霏々連月霽れず激浪空に排し天地晦冥山岳形を潛むるの時諸氏當時檣傾き楫摧け咫尺點滄力盡き勢憊れ血涙を呑んで遂に青森縣下鮫港近海の魚腹に葬られたるもの遭難第一着に於ける十九名諸氏の亡命とす或は一葉の片舟に棹し激潮を破り毒霧を冒し獵に食にエカルマに渡嶋遂に終る處を知らざるもの遭難第二着に於ける五名諸氏の亡命とす或は丘上艸深き處冥暗たる艸廬瘴烟充塞水腫症に罹り遂に肆首鬼籍に登りたるもの遭難第三着に於ける病歿四名諸氏の亡命とす或はホロモシル島單身越留遂に二竪の冐す處となり黄泉の客たりしもの遭難第四着に於ける病歿者和田平八氏の亡命とす或は土窖の穴居毒霧寒烟の冐す處となり水腫症に罹り呻吟苦悶醫なく藥なく遂に永眠不歸の客たりしもの遭難第五着に於ける病歿三名諸氏の亡命とす嗚呼三十二名亡命の諸氏或は狂瀾怒濤の間に沈沒し或は沮洳濕潤たる土窖内堅氷の上に苦悶し遂に終焉一塊既に絶へんとする叫喚呻吟の悲聲或は淘湧たる鮫港近海及びエカルマの波濤に殘り或は極北絶海不毛の寒鄉たる占守及び捨子古丹土窖の堅氷に印し綿々として万古滅するの期勿るべし嗚呼諸氏の殉難致死唯諸氏の不運なるのみならず大日本帝國同胞諸氏の不幸之れより甚しきはなし諸氏の魂魄亦泉下に憤慨に耐へざるべし然れども諸氏の死は國家の忠死なり天下の義死なり人生一死あり何すれぞ死を悲まんや況んや諸氏生きては君に忠に國に義に一死をして泰山の重きに比し其の避くべからざるの危難に遭遇しては一死をして鴻毛の輕きに比し諸氏死を俱にして潔きを天下に示せり今や諸氏の忠魂義魂既に業に正果を得たるなるべし蠱毎月廿四日占守穴居艸廬内三十二名諸氏の靈前に跪き聊か拜佛讀經の回向をなす嗚呼殉難節烈なる諸氏の靈希くは髣髴來り蠱讀經の吊祭を饗けよ銘

に云く

千嶋拓殖元勳之士、殉難殺身忠心義膽諸氏之靈朦在宇宙、永守(北門鎖鑰天興利源)千嶋

(三十一) 耶蘇教徒に與ふる千島土産 (於占守穴居起草)

占守穴居殘留者　白瀨　矗

矗巒に報效幾會員として明治廿六年八月より越て同廿八年十月に渉り其の間殆んど三ヶ年千島の關門占守の孤島に穴居殘留千辛を呵責し万艱を叱咤し地理を探撿し形勢を熟視し利源を調査し氣象を觀測し特に密獵外船跋扈蹂躙の暴狀を面り目覩し我が日本帝國の爲め我が千島の爲め我が忠愛義勇なる同胞諸氏の爲め慷慨悲憤の熱情より血涙を迸ぎ碧奴の侮蔑堪へ難きを忍び幸ひに朔雪寒雨の天徼に勝つことを得て生命を瘴烟毒霧の裏に全ふし今や千島の土産を齎して同胞諸氏に相見ゆるを得るに至るもの自他の幸福此れより大なるはなし即ち矗は誠意衷情以て千島の實勢現狀を同胞諸氏に告ぐることを得同胞諸氏又虛心平氣以て之れを聞くことを得ればなり然るに今左に叙述するものは特に千島の土産として耶蘇教徒に與ふるの贈りものなれば同教徒たるもの能く翫味して之れが甘酸の良否を日本臣民たるの本心に告げ悔改の實を得ば日本帝國の爲め矗は日本臣民としての同胞たる信道上大に嘉せんとす

明治廿七年八月中旬より同年九月初天に至る其の間殆んど二週日矗等の艸廬に寄寓し居たる米國密獵賊船アレキサンダー號(五十五噸乘組總員二十二名の内二名日本人)乘組員の一名マホチなる者(マホチ寄寓の理由下の如し同人は矗等の平他の帆船に乘組我が千島近海に密獵し其の暗礁を露領近海に延ばしたるに圖らずも露艦の捕ふる處となり該船を没收せられ乘組總員懲役となりサガレン島に苦役中巧みに逃避歸來するを得、今回更にアレキサンダー號に乘組又々我が千島に盜賊を働かんが爲めに來り尚較船賊手を露領に延ばさんとたせし爲め該マホチ先年の災厄を懲れ本占守に上陸他の賊船の來灣を待ち便乘の上函館或は横濱へ歸らんとの主意にて矗等の艸廬に強いて寄寓せし譯なり又同人は去る明治廿三年三月中占守の嶋島ホロモシルの東南隅に於て破船したる辨天號乘組員二十二名中の一人にして破船の當時五日間雪中に起臥狐肉を生食し運命を天に任かせ死を旦夕に待ちつゝありしに圖らざりき第三千島丸の救助する處となり生命を今日に全ふすることを得たりと話されたり)耶蘇教の篤信家にして寄寓中朝夕天に向ひ拜神の祈禱をなせしこと實に務めたりと云ふべし加之同人の右腕に十字架及び慈母の名字を刺文しあるを矗等に示し且つ語て云く概して密獵(密獵とは賊の名命せし處さす)船舶の乘組員は皆耶蘇教の篤信家なり如何となれば一葉の片舟に運命を托し万里の波濤を破り危險を冒し世界を横航するを以て神に船舶の安穩船員の無事密獵の(同人のいひしは漁獵なれども賊は實際上より密獵の語なるを以て爲に流を密させ譯なり)夥多なる等を祈り併せて米國の繁盛殷富ならんを禱ることと恰も甲乙船舶相競ふ如きもの即ち米國遠洋密獵々船々員の耶蘇教徒中特に篤信家の名を博し得たる所以なり故に此の如く手腕に十字架の刺文したるもの予のみに非ず殆んど十中の八九皆然らざるはなしと傲然誇り顔に耶

蘇教徒の看板を現はし蟲等に物語りたるの一事此れなり蟲此の物語を聞き且つ手腕十字架の刺文を見徐に一視同仁なる平等的上より耶蘇教の運命最早孤城落日の期に迫りつゝあるを哀吊せり即ち我が千島に來て强盜をおすの徒皆耶蘇教者あればなり嗚呼、耶蘇教の末路憐れむに堪へたり零落も又甚しからずや蟲又忠君愛國差別的上より我が日本帝國の爲め我が千島の爲め耶蘇教を攘逐撲滅し耶蘇教徒たる密獵賊船を殄戮粉碎して我が日本帝國危害の根本を洗滌し我が千島强賊の淵窟を掃除して我が國家を泰山の安きに置き我が千嶋の利源を全うして我が國益の增進を計り宮國軍兵万邦に雄視卓立するの基礎を策定せんことを大聲呼號天下に絶叫して以て我が日本帝國同胞諸氏特に耶蘇教者に計らんとするもの此れ我が國家の一大重事に係はるを以てなり耶蘇教者去就以て如何に決せんとする乎嗚呼、進んで諸氏の祖先及び諸氏墳墓の地たる我が日本帝國の爲め忠を盡し國を愛せんとする乎將た退いて空想夢裏の嫉妬抑壓なる天帝の足下に奴隷たらんとするの耶蘇教徒として甘んずる乎擇一の塲合夫此の危急にあり嗚呼禍なる哉（イエスの口調を真似）耶蘇教徒の迷妄者我が東洋仁義の日本帝國即ち万邦無比皇統一系の神國に生を禀け眞理燦爛たる大乘佛教の法雨に浴し忠君愛國の臣民として倫常燦灼たる道德の教風に欝り乍ら何を苦んで非國家非眞理妄誕夢想、外面如菩薩內心如夜叉的なる耶蘇教に我が日本帝國臣民たる忠愛義勇の潔白なる精神を汚染せんとする乎蟲は同胞の信義上耶蘇教の邪毒に眩惑せられつゝある者の爲めに哀憐せざるを得ず否我が千島を戕賊する我が國害たる耶蘇教蟲は七たび生れ來るも之れを撲滅せざれば止まざらんとす而して其の耶蘇教を目して非國家的と否定せしは蟲の喋々を待たず古今の煩學東西の識者多々之れあり近くは井上博士の衝突論以て確證の一たり又非眞理的妄誕夢想外面如菩薩內心如夜叉的等の判定事實此れ又蟲の言を待たずして前者の如く然り尙近くは井上圓了博士の破邪活論及び藤島了穀氏の耶蘇教の末路以て之れが馬脚を露したるを證するに餘りあり上來の如くなるを以て耶蘇教の我が日本帝國に必要なきのみならず消極的我が日本帝國の國体を害し安寧秩序を紊亂し積極的我が千島の利源を戕賊する謀反者强盜に外ならざるを以て蟲は天下に絶叫して該教撲滅の援助を同胞諸氏に乞はんと欲す蟲は唯漫に耶蘇教徒は國賊なり故に該教撲滅せざるべからずとはいはず蟲は三ヶ年間强盜の淵窟たる千嶋の關門に身を投じ碧賊跋扈の實勢現狀に親く目覩面觀するの實際上より强盜たる耶蘇教徒を兇賊と呼稱せしのみ素と盜賊を盜賊と呼ぶ誰れか之れを失當となさんや然れとも蟲は尙念の爲め賊稱の由來、事實的たるを一言するのみ、事實此の如くなる

を以て亟は改めて耶蘇教は我が國家の蠹毒なり耶蘇教徒は我が千嶋の强盜なりと斷言せんのみ陳腐乍ら恐れ多くも我が神聖なる　天皇陛下の御眞影に對し我が國体の基礎たる教育の勅語に對し不敬無禮の行爲をあせしもの皆耶蘇教徒に非ずや十數年來我が千島の利源を戎賊し今尙跋扈蹂躙貪婪他く無きの强暴を逞うし我が國威を蔑視しつゝあるもの皆耶蘇教徒に非ずや嗚呼何すれぞ夫れ此の如く耶蘇教徒の我が國家に對し害毒を流すことの多々なるや亟は我が國家の爲め瞬時だも早く耶蘇教を撲滅攘逐して我が國家の大患を除去せんことを上は天地の神祇に祈り下は同胞諸氏と共に忠君愛國の皷を鳴らし國外に放逐せんことを我が日本帝國の爲め我が千島の爲め共に俱に決行せんことを希望して止まざるなり否强て相提携して以て其の實の擧らんことを同胞諸氏に慫慂し促さんとするものなり耶蘇教徒亟の斯く述ぶるを見例の卑劣なる哀なる窮辭を以て必ず云はん不敬無禮の輩又は密獵外船々員の徒の如きは耶蘇教眷中の變人あり僻者なり眞正の耶蘇教者は此等變僻の徒輩に對し悔ひ改むるの方法を謝じつゝあり或は耶蘇教徒中殆んと擯斥爪彈きせられつゝあるもの共なりと亟云く耶蘇教徒中變人僻者又は淫猥破道德の輩を除去せしならば殘徒幾人かあるべき恐らくは殘數の結果零たらざるも又甚だ遠からざるに至らんのみ嗚呼我が同胞諸氏の耶蘇教徒たるもの最早執拗なる剛愎を止め前非の迷妄を悔ひ改め碧奴の糟粕を嘗むるに眷戀たるの情念を絶し早く本心に歸し正道に安住するの時機今や失ふべからず嗚呼死して後ち止むの不拔心眞に好みすべしと雖ども其の犬死なるを如何せん語に云はずや過て改むるに憚る勿れと諸氏夫れ勿憚の美德に從ふに吝なる勿れ嗚呼哀なる哉耶蘇教の實勢非眞理の大敗に餘命を保ち非國家の進擊に殘喘を據へ末路の襲擊に殆んど死に頻し今や亟が千島土產の贈りものに絶息する豈夫順序ならずや然れども此の絶息たるや所謂轉迷開悟的即ち忠君愛國たる日本臣民の本心に還歸するの意味なり執拗なる勿れ耶蘇教徒剛愎を止めよ迷信沓最早耶蘇教の百孔千瘡到底癒すべからざればなり亟は斯く耶蘇教を排斥し撲滅するに熱心なるも亟は決して野次馬的攘夷論者の提灯持に非ず亟は濫りに假裝國粹保守者を氣取るものに非ず亟は阿世曲理好んで戯辯を弄するものに非ず亟は耶蘇教徒のバイブルを曲解するが如く牽强附會飾非害正を喜ぶものに非ず亟は唯忠君愛國の日本臣民としての本領たるを知ると同時に眞理を愛し非眞理を排斥せんとするものなり故に亟は忠君愛國を本領とするを以て理論上非國家的たるのみならず實際上我が千島の利源を戎賊する耶蘇教を國外に攘逐

せんと絶叫するものなり蠹は眞理を愛し非眞理を排斥せんとするを以て理論上非眞理なるのみならず實際上不敬無禮淫猥の我が風俗を害する耶蘇教を撲滅子退なきに至らしめんとするものなり蠹は國家の利益を增進し國体の鞏固を計らんとする爲めには有形無形を論せず學術技藝百般の事物我れの短にして及ばざるものは素とより其の長にして我が國家に適合するが如きは彼れ泰西に就て大に之れを採擇せんとすること既往現在我が國家の實行しつゝ來りたるが如く將來共蠹は大に同意翼贊する處なり唯耶蘇教の一點に於ては徹頭徹尾我が國家に必要なきのみならず大に害惡を及ぼしたること既往は勿論現在尙我が日本の精華を傷ひ我が千島の蠹毒となりつゝあるを以て將來の禍害火を見るより瞭然たり況んや我が日本帝國固有の正善優美なる道德、眞理躍然四恩說盡したる佛教の燦爛光輝を發しつゝあるに於てをや何を苦んで妄誕不稽牽强附會なる强盜的耶蘇教輸入の必要あらんや蠹は今佛耶兩教の價値上公明正大なる皮肉的一言を耶蘇教徒に與へん乞ふ我が同胞の耶蘇教者諸氏よ偏僻邪執の妄見を棄て至明至平の活眼を開き虛心平氣以て三考せよ云く我が日本大乘佛教は黃金の如く彼れ耶蘇教は瓦礫の如し即ち眞理非眞理との謂なり故に今や佛教は墮落惡僧の手にあるの黃金僧に垢染せしのみ之れが垢染を拂拭し去る立處に燦爛たる本質の光

輝赫灼たるや論なきあり耶蘇教は泰西文明人の手にあるの瓦礫僅に文明の彩色を裝ひあるのみ之れを黃金の中に投ずる一の瓦礫たるのみ嗚呼瓦礫を以て黃金に代へんとするの徒愚も亦甚しからずや蠹も始めバイブルなるもの〻耶蘇教に於ける恰も兵家の韜畧佛の一切經とも稱すべき機智神聖なる經典と心得居たり然れども塵事多忙未だ一讀の閑を得ずして遂に占守に越留するに至れり然るに幸ひ蠹は去る廿六年中擇捉紗那に於て耶蘇教の傳道者故高橋傳五郎氏（同氏は仙臺東北學院なる耶蘇學校卒業生にして耶蘇教傳道の爲め報效爬會特別員として廿六年中同會へ跟隨千島（渡島同廿六年八月中千島捨子古丹島越留中他の八名と共に病沒せり嗚呼哀哉諸氏の不運不幸なるか）より蠹に耶蘇教を妄信せよとの切情より和譯の新舊兩約全書合本一冊贈與せられたり故に蠹占守越留盤居中無聊の餘り舊約全書開卷創世記より始め新約全書ヨハ子默示錄の結尾に至る浩瀚通覽熟讀し了れり爰に於て蠹バイブルに對し獨語して云く嗚呼汝ぢバイブル汝は眞に蓋世の奸雄なり汝ぢ全身の骨肉徹頭徹尾皆怪談妄說浅言猥語殺伐鬪爭殘暴酷薄あらざるはなし（或は聊か取るべきの言行あり之雖ども此れ唯平凡者の能く言ひ顯はし能く履行すべきの事、別に感服すべき程の價値なきものとす）然るに尙年序の久しき瓦礫を彩色しつゝあるの豪膽蠹甚だ驚嘆せり今や不運にも一たび誤て我が日本帝國に足を容れ我が佛教眞理の光輝に蔽はれ我が神國の德雨に遭ふて彩色の裝ひ一朝に剝落し悲い哉瓦礫の本体既に業に現れ最早草間に棄擲せられんとして今や掌中に握られつゝあ

り嗚呼汝の運命旦夕に迫れり奸雄の末路哀れむべし故に蠣は爾後汝ぢを呼んで（Folery）パイブルとなさん以て汝ぢ馬脚を露はしたるを吊するの紀念とす汝ぢ若し靈あらば謹んで受けよといへり嗚呼我が同胞諸氏の耶蘇教者我が國家の爲め我が千島の爲め害毒たる耶蘇教を國外に放逐するの義に同意左袒せられん事を蠣は尚特に檄す耶蘇教徒中の識者たる諸氏即ち横井氏、大多氏、大西氏、嶽村氏、小崎氏、高橋氏、押川氏、嶋田氏、伊藤氏、内村氏等他の平凡齷々たる野次馬的狂徒は佛教徒一部の墮落愚僧と糊匹にして共に計るに足らず檄するも感せざるべく殆んと知覺なきもの〳〵如くなるを信ず故に蠣は特に諸氏に檄して我が國家の大事を計らんとす嗚呼諸氏の識、一朝妄信の迷夢を攪破し我が國家の爲め我が日本帝國の忠愛義勇なる道德の美華を闡揚し我が日本の佛教たる大乘の眞理を發揮せしむるに盡すあらば我が日本帝國の鞏固我が同胞たる臣民の幸福果して幾何ぞや今蠣は千島の土產を耶蘇教徒に與ふると共に該教徒中の識者諸氏に耶蘇教撲滅擯逐の義舉を特に計ること此の如し識者諸氏幸ひに躊躇するなく勇猛突擊我が日本帝國我が日本佛教のパウロとなり率先以て耶蘇教殄滅に先鞭を着けられよ蠣は北天涯角に兀坐して活目以て諸氏の吉報を待つ阿蛙面

於占守穴居土窖　白瀨　蠣　起草

（三十二）　頌德表及祝文

明治廿六年十一月三日天長節　頌德表

維時明礼念陰出黃鐘初三桂千嶋拓殖穴居越留の臣蠣謹んで遙に允文允武なる　天皇陛下の御盛德天壤と窮りなきを頌讃し奉る臣蠣伏して惟るに恐れ多くも陛下雛の年特に左右侍臣に勅命を下し千嶋群嶋を探檢せしめられたり此れ畏くも陛下の德澤千里不毛の孤嶋に及び臣民をして競ふて北門を守備し極北無人の寒鄉を拓殖せしめんとするもの陛下の御叡慮常に恒に邦國の御事に注かせらるゝ御懿德の感應に依らずんばあらず臣蠣千里極北穴居越留の占守に於て遙かに　聖明陛下の御盛德を仰ぎ頌讃し奉る恐惶敬肅　臣布衣　蠣

天皇陛下万歲　皇后陛下万歲　皇太子殿下万歲　日本帝國万歲

明治廿七年九月廿三日秋季皇靈祭祝詞

維れ時明礼念賀年無射念參五北門の要扼たる極北占守に於て穴居越留の鵡鴞臣蠣謹んで秋季皇靈祭の佳辰を祝賀し併せて允文允武なる天皇陛下の御盛德天壤と極せり無きを遙かに頌讃し奉る臣蠣伏して惟るに恐れ多くも陛下の御心を邦國の御事に注がせられ玉ふ事曾に東西に其比なきのみならず曠古未だ曾て絶無

にして今始めて陛下に於て仰瞻し奉るのみ特に遼遠寂寞千里不毛の極北千島の御事に於ては臣蠡恐懼唯感佩し奉るのみ臣蠡陛下御叡慮の万一をも安じ奉らんと欲するも今は孤身微力彼れ碧奴の跋扈蹂躙を防遏する能はず彼れの暴狀恣に我が帝國の港灣に投錨し我が國旗の直下に賊獵し臣蠡等を蔑視し以て傲然跳梁たるもの一にして止まず去る六月以來今九月に至る其の間米國密獵帆船にして我が占守灣に來り我が國旗を冒すもの實に數隻の多きに至れり彼れ兇賊一彈を放つ毎に臣蠡五体寸斷せらるゝの思あるのみならず併せて我が帝國々旗を攫裂せらるゝの恥辱に陷るものゝ如し嗚呼彼れ碧奴の暴狀眞に此れ不倶戴天の怨恨彼れ賊船をして微塵粉碎以て聊か國旗汚辱の大不敬を罪せんと欲するも臣蠡今や力微に孤あり進んで兇賊を擊つに由なく退て日本帝國々旗の皇威を發揚する能はず臣蠡進退維れ谷まらんとするに迫れり嗚呼已んぬる哉時の不運に遇ひ未だ國旗の威烈唯韜晦に沒するのみ臣蠡愛國の士と討議協贊以て一日も早く極北要鎭の占守に警備の建制鞏狄を殺置し赫々たる國旗の威烈兇賊をして悚慄愧死せしめ日本帝國の武威万天に顯揚するに至る近さにあらんとす臣蠡俯伏叩頭秋季皇靈祭の佳辰を祝賀するに當り併せて賊船跳梁跋扈國旗汚辱の現狀を遙かに申奏し奉る

兩陛下万歳　皇太子殿下万歳　日本帝國万歳

明治廿七年十月十七日神嘗祭祝詞

維れ時明治廿七年應鐘拾貳五北門の要鎭たる極北占守に於て穴居尅留の臣蠡謹んで神嘗祭の佳辰を祝賀し併せて至仁至聖なる兩陛下の御盛德天壤と極まり無きを遙かに頌讃し奉る臣蠡伏して惟るに蠡昨年以來占守に在て煙烟を破り毒霧を冒し驟雨に浴し朔風に櫛り凜冽たる六花に閉ぢられ身に襤褸を纏ひ口粗食を食ひ矮陋なる土窖の蟄居露天と相去る殆んと遠からざるなり然るに蠡未だ嘗て微恙だも感せず多々益々身心强勇以て國旗を守護するに餘りあるもの此れ偏へに神明佛陀の加被力と陛下の御威德極北不毛の孤島に冥感したるに依らずんばあらざるなり臣蠡謹み肅んで唯感佩の外他あらざるなり臣蠡心骨に刻し瞬時だも忘るゝ能はざるもの早く建制警備の鎭護を設け一は以て陛下御叡慮の万分一をも安じ奉り一は以て日本帝國の皇威を北溟極寒の外に發揚せんと欲するにあり臣蠡俯伏叩頭神嘗祭の佳辰を祝賀するに當り併せて臣蠡恙なく國旗を守護し國旗に對し敬禮をなしつゝあるを遙かに申奏し奉る

兩陛下万歳　皇太子殿下万歳　日本帝國万歳

明治廿七年十一月三日天長節祝詞（祝砲三發を揚ぐ）

明治廿七年十一月三日占守穴居越留の臣蟲謹んで天長節の佳辰を祝賀し併せて臣蟲勇壯健全飲み肅んで國旗を守護しつゝあるの狀幷に現時占守に於ける天晨の一斑恐れ多くも遙かに天皇陛下へ申奏し奉る謹み奏す夫れ占守現時の天晨たる去る十月中旬の候既に業に雪を降し今や積雪尺餘加之凛冽たる朔風連日止まず河流既に堅氷を結び鯔鱵も殆んど温を失ひ禽鳥巣に憩ひ走獸穴に蟄し且暮耳管を聾せんとするものは激浪怒濤の岩角を嚙む潺々の音響わるのみ特に隣嶋阿賴度及び幌筵後二嶋の如きは既に業に九月初旬雪を降し今や全島白皚々の遠望を呈し朔風の之れを潛め來る其の寒威亦更に嚴なり而して寒暑鍼（華氏）旦夕の最低氷下を指點せり今や全く天地の光景一變蕭殺の感轉々迫り來る爰に於て臣蟲想起す昨年の現時に比し寒嚴の先つこと殆んど一ケ月なり今年の天晨と昨年の天晨と同じからざるもの此の如し然るに臣蟲の占守に越留すること昨年の蟲は亦今年の蟲なり今や臣蟲空々無爲にして索莫無聊の孤島に穴居越留すること爰に二裘褐其の間困苦に堪へ欠乏に忍ぶも素と蟲の甘んじて國家に盡すべき必任義務なるを以て毫も痛を呼ばざるなり唯々臣蟲の意を注ぎ心を熱し邊防の守備早く北門を鎖さんこと切望して瞬時だも未だ曾て忘るゝ能はざるなり嗚呼日本帝國々旗に無禮なる無賴の徒、祖宗の神靈に不敬なる烏合の衆は絕對的北門の守備たらざるのみならず國威を汚辱するの大なること外船密獵の害毒より尙更に甚しきに至らんを恐る○○○○○○○○○○○○○○○○○○に當り默過するに忍びず謹み肅んで爰に奏訴し奉るに至る爰を以て臣蟲越留の間沈思熟察邊防の策圖を案じ實視探檢守備の地勢を審かにし以て蟲國家に盡すの義務を全ふし急々邊備を嚴立し聊か陛下御叡慮の万分一を安じ奉らんと欲す臣蟲誠恐誠惶俯伏叩頭天長節の佳辰を祝賀するに當り占守現時の光景を遙かに申奏し奉る

兩陛下萬歲　皇太子殿下萬歲　日本帝國萬歲

明治廿七年十一月廿三日新嘗祭祝詞

明治廿七年十一月廿三日占守穴居越留の臣蟲謹んで新嘗祭の佳辰を祝賀し併せて臣蟲多々強健國旗を守護し祖宗の神靈を拜敬しつゝあるの狀幷に現時占守に於ける天晨の一斑恐れ多くも遙かに大元帥陛下へ申奏し奉る謹み奏す夫れ占守現時の天晨たる强勢なる連日の朔風凛冽たる寒雪を齎らし來り天地爲めに皎々の觀を呈し河水大に堅氷を結ぶに至れり華氏の寒暑鍼近時正午の指點する槪して氷下のみ爲めに寒威の激烈襤褸を貫徹し肌膚に感刺

すること頗る劇甚なり臣蠡昨年の今時に於ける天晸の調査を案するに今時の寒暑鍼其の正午指點する處概して四十度前後にあり爰を以て知る昨年の溫暖にして今年の烈寒なるを即ち年々歳々氣候の同じからざるもの夫れ此の如し嗚呼日本帝國臣民たる者恰も氣候の年歳同じからざるが如く即ち昨年の千島に對して因循躊躇あるものを轍却し今年の北門を見る霹靂果斷の實策を決行せられんことを故に臣蠡早急日本臣民の頑睡を喚起し固息の迷夢を攪破し邊防警備の魏猋を嚴立せんこと熱望に堪へざるなり臣蠡誠恐誠惶俯伏叩頭新嘗祭の佳辰を祝賀するに當り占守現時の天候を遙かに申奏し奉る

兩陛下万歳　皇太子殿下万歳　日本帝國万歳

明治廿八年一月一日四方拜祝詞

明治廿八年一月一日占守穴居越留の臣蠡謹んで新年の佳辰を祝し至仁至慈なる天皇皇后兩陛下并に叡智勇武なる皇太子殿下の御盛德乾坤と窮り無きを遙かに嘉頌し奉り併せて占守現時の光景を謹み伏して申奏し奉る夫れ占守現時の光景たるや殺列たる連日の寒風吹雪を騰し來り卷騰散亂粉粹を埋め丘陵に積み平地に堆く河川を塞き艸屋を沒し滿目唯皎々皚々海岸又渺氷を結ぶに至れり而して寒暑の度華氏寒暑鍼皆點する處概して(正午)氷點下十六度以下にあり此れ即ち占守現時に於ける天晸の一班此の如し加之凜乎たる寒威肌膚を刺し破綻の襁褓溫を失ひ汚腐たる土窖吹雪侵入粗渺の夜衾積雪重く稀れに南風の寒を解くや鎔融たる雨水潦々窖内に迸漏し來り汎溢充溢泥濘苗田の觀を現し火炊を妨礙せしめ薪炭爲めにしたゞり書冊爲めに漂ひ起居處を失し徹宵彷徨する屢々なるもの此れ即ち蠡占守土窖整居の現狀とす伏して惟るに此の如き苦寒困憊の裏に生活すると雖も身体の强健多々益々新を加ふるが如く勇壯たる活氣日々に燻んにして國旗を守護し祖宗の神靈に奉仕するの行務未た曾て一回だも怠慢せしことなきのみならず微恙だも感せざるもの此れ恐れ多くも神明佛陀の加被力と神聖なる陛下の御威德極北千里の占守に砿礫たる餘光の感應ならずんばあらず嗚呼大なる哉偉なる哉陛下の御盛德蠡唯伏して感佩の外他あらざるなり爰に蠡廿八年一月元旦の新禧を祝するに當り恐れ多くも陛下御龍顏麗しく祥雲靉靆鸞鳳欣舞の宮城殿裏に新たに御齡を迎ひさせらるゝの御佳辰を遙かに恐祝し奉り併せて占守現時の光景并に蠡占守土窖整居の狀況伏して申奏し奉る誠恐誠惶謹み奏す

兩陛下萬歳　皇太子殿下萬歳　日本帝國萬歳

明治廿八年一月三十日孝明天皇祭々典の詞

明治廿八年一月三十日占守越留の臣蠡謹んで至仁至聖なる孝明天皇陛下の祭典を擧行し併せて今上天皇皇后兩陛下幷に皇太子殿下の御平安を祈り奉り亞いて占守現時の天晸一班を遙かに申奏し奉る謹み奏す夫れ現時占守の天晸たるや强猛たる朔風連日止まず凜冽たる吹雪天地を冥まし嚴殺たる酷寒鐵色を奪ふに至れり爲めに体温殆んど抵抗するの力薄く夜衾を重ぬる多々なるも酷烈たる寒氣肌膚に徹し來り終宵安眠する能はざるもの數回炊爨の用水皆凝結爲めに堅氷を破碎し以て飮炊し盥洗又凝雪を掬融し使用するに至るもの數週日海中の堅氷殆んど數尺の厚面を以て全然海峽を凝閉密塞し隣島幌藻依嶋へ徒渉し得るに至れり寒暑鍼の如きは大寒入日以來華氏列氏兩ら水銀凝結して顯れざるもの連日、眞に寒威の酷烈なる所謂指を墜し肌を裂くが如きに至るや其の間相去る甚だ遠からざるなり金屬の手指等に吹着する又以て寒嚴の高度を想念するに足れり瞑點たる寒天日光を見ず淵々たる朔風吹雪を齎し來り土窖を埋め門口を塞ぎ出入途絶え喑籠蟄居酷烈たる嚴寒に抵抗しつゝ無聊を研學の一方に歸し無異强健浩然豪壯の精氣を養ひ國家の爲め千島の爲め清貧義艱の生活をなしつゝあり此れ之れを占守現時の寒嚴一班其の概略此の如し臣蠡伏して想念し奉る古人も曾ていへるあり江湖の遠きに居れば其の君を憂ふと今や臣蠡千里離隔絶海孤嶋の千嶋極北占守の遠きに在て此の苦寒酷烈に遭遇し寒威肌膚を刺徹する毎に陛下の御龍体恙なくわらせらるゝやを恐凝せずんば非ず嗚呼股肱の臣たる蠡皇天皇土の神祇に祈り奉る我が大元帥たる天皇陛下の御平安ならんことを臣蠡孝明天皇陛下の祭典を擧ぐるに際し占守現時の寒嚴一班を遙かに申奏し奉る誠恐誠惶謹み奏す

両陛下万殿　皇太子殿下万歳　日本帝國万歳

明治廿八年二月十一日紀元節祭祝詞

明治廿八年二月十一日占守穴居越留の臣蠡謹んで紀元節の佳辰を祝賀し併せて今上天皇皇后兩陛下幷に皇太子殿下の御盛德天壤と窮極なきを頌讃し奉る臣蠡伏して惟るに皇祖神武天皇陛下御登極の元始より爰に二千五百五十有五年其の間年序の久遠なる此の如しと雖も皇統連綿として殆んど日月と併行しつゝあるもの世界廣しと雖とも万國多しと雖とも未た曾て万世に渉りて皇統一系なる我が日本帝國の如くなるの邦國既往より其の比なきのみならず將來に至り多々益々得べからざるや明かなり嗚呼我が日本帝國の皇室一系の皇統に賴りて久遠に繼承し來り玉ひし事、事實に照し史に鑑み世界無比絶對無上の皇室たるや世界の是認する處万邦の渴慕するもの此れ我が日本帝國の世界に卓立する所以なり臣蠡謹ん

て金甌無欠の日本帝國を樹立し玉へる皇祖神武天皇陛下御建國の當時を恐察追想し奉るに陛下躬親ら魑魅を御統率あらせられ矢石の間に御龍体を投じ玉ひ百戰千鬪遂に四方不逞の群兇匪徒を討滅征服あらせられ鎮定の御功績を擧げさせられたる其の至艱至難言以て語り難く文以て綴るべからず唯天資英邁勇武絶倫卓拔豪壯に渡らせられたる陛下の御武畧に歸し恐縮感佩し奉るの外他あらざるなり嗚呼誰れか日本臣民たる者我が皇祖神武天皇陛下の御鴻澤に報ひ奉らんと欲せざるものあらんや換言すれば忠君愛國の心なきものは我が日本帝國の臣民に非るあり臣蠡幸に魑魅の一員に列し今上天皇陛下股肱の臣として今や千里極北天涯孤島の占守に穴居越留し百艱に抵抗し万辛に屈せず瘴烟を叱咤し毒霧を呵責し天敵と交戰すること爰に殆んど三霜禍今や天敵も勢殺ぎ氣慓れ將さに其の威を收めんとす嗚呼不毛の寒鄉玉澤の沾被に浴する日、遠からざるなり臣蠡微身孤力なりと雖ども滿腔の熱情を凝ぎ上天に祈り下地に禱り中以て我が同胞たる臣民に策り千島邊防鎭護の嚴立其の迅速あらんこと切望に堪へざるあり今や占守天晷の氣大に軟化し酷烈たる嚴寒其の威を減殺するの暖差殆んど二十餘度降雪尙盛んなりと雖ども向陽の氣自ら磅礴たるものゝ如し臣蠡紀元節の佳辰を孤島の占守に祝賀するに當り恐れ多くも皇祖神武天皇陛下御登極の往昔を追想し併せて今上天皇皇后兩陛下并に皇太子殿下の御平安を天地の神祇に祈り奉る誠恐誠惶謹み白す

兩陛下萬歲　皇太子殿下萬歲　日本帝國萬歲

明治廿八年三月二十日占守穴居越留の臣蠡謹んで春季皇靈祭の佳辰を祝賀し併せて兩陛下并に皇太子殿下の御平安を祈り亞いて占守現時の天候一班を遙かに申奏し奉る臣蠡謹み奏す現時占守の天候たる季三月に入りし以來强猛たる朔風連日休せず凜冽たる吹雪嚴殺たる酷寒殆んと嚴冬に異なることなし爲めに海中の如きは堅氷大に凝結し海峽全く閉塞するに至れり寒墨鍼の如きは華氏列氏兩ら正午に至り僅かに水銀顯出するのみ眞に寒威の酷烈なる嚴冬に劣らず兇暴たる吹雪土雪を埋沒し食菜を得んとすゝも飲水最早盡くるも薪材消耗するも蟄居閉息の鬱寂を散せんが爲め運動せんとするも戶口密塞凝雪殆んと鐵壁の如く出入を絶する十有九日爲めに無聊鬱結の極他の一名遂に鬱甚の篤疾に罹り臥褥療養今稍僅かに快方の緒に就けり臣蠡幸にして身心聊かも運和することなく多々益々强壯勇健なるを覺ゆ唯臣蠡此の如き苦寒の酷烈に遭遇する毎に兩陛下并に皇太子殿下の御龍体恙なくわらせ

らるゝや否やを恐懼せずんば非ず臣蠡今春季皇靈祭の佳辰を祝賀するに際し兩陛下并に皇太子殿下の御平安を天地の神祇に祈り併せて占守現時の天候一班を遙かに申奏し奉る臣蠡誠恐誠惶謹み奏す

兩陛下萬歲　皇太子殿下萬歲　日本帝國萬歲

明治廿八年四月三日神武天皇祭祝詞

明治廿八年四月三日占守穴居越留の臣蠡謹んで皇祖神武天皇陛下御登遐の祭典を舉行し併せて今上兩陛下并に皇太子殿下の御平安を祈り奉る臣蠡伏して惟るに本日は恐れ多くも皇祖神武天皇陛下の御登遐あらせられたる日にして日本臣民たる者尤も謹肅すべき祭日とす而して今や御登遐を去る二千五百有餘年の歲霜を經過せり然るに我が皇室の尊榮なる我が國体の鞏固なる我が臣民の忠勇なる我が風教の正美優秀なる皆万邦に卓絶して世界の羨慕する處たるもの此れ偏へに恐れ多くも皇祖神武天皇陛下身躬ら矢石を冒し玉ひ南征北伐百戰千闘遂に不逞兇族の徒を撃ち平げ玉ひ御建國あらせられたる賜ならずんば非ず嗚呼臣蠡今にして御建國當時の御艱難を追想し奉るに唯感拜恐伏の外無きなり臣蠡本日千里極北の我が占守にありて皇祖神武天皇陛下の祭典を舉るに際し陛下の御陵に向ひ遙に敬拜し奉

兩陛下萬歲　皇太子殿下萬歲　日本帝國萬歲

明治廿八年九月廿三日秋季皇靈祭祝詞

明治念鉢年無射念參日占守穴居越留の臣蠡帆船八雲丸に便乘歸航の途次千島捨子古丹嶋停錨中該船甲板上に於て大日本帝國々旗に對し謹んで秋季皇靈祭の佳辰を祝賀し併せて大元帥陛下の御平安を祈り奉る伏して惟るに昨二十七年隣邦高麗の國事に關し支那政府溫に天津條約に背反し我が大日本帝國に對し冥頑無禮の所爲ありしより允文允武なる我が大元帥陛下には万國公法の正義に基き迅雷電火戰宣を布告し恐れ多くも、大元帥陛下身躬ら三軍を引率し玉ひ大淵を廣嶋に置かせられ討伐進軍の區處より攻城野戰の配兵に至る等事大小となく一に陛下身躬らの御直令ならざるはなし故に王師の向ふ處皆披靡せざるはなし彼の大連灣に於ける威海衛に於ける旅順口に於ける占領の速かなる鬼神も端倪すべからざるなる事局遂に彼をして和を請しむるに至れり嗚呼我が大日本帝國の武威今や九天の上に宣揚し万邦の畏敬する處たるもの素と我が國民の義勇なると我が軍隊の整正なるとに依らずんば非ず換言すれば國民の義勇なるも軍隊の整正なるも恐れ多くも皆

大元帥陛下常に恒に大御心を國政に注かせられ特に軍隊の整備に御鋭意を傾けさせられたるの結果に外ならざるものと恐察し奉る臣蠡不幸絶海の孤島に穴居殘謫せられ股肱の臣たる義務を

大元帥陛下に盡し能はざりしは終天の遺憾なりき然れども臣蠡西、人敵に當らざるも東、天敵と抗戰遂に凱旋するに至り北門守衛の任務を全ふしたるは聊か報國の一端たらん乎と自信せり臣蠡秋季皇靈祭の佳辰を祝賀するに當り遙かに

大元帥陛下の御平安を祈り奉る臣蠡誠恐誠惶謹み敬す

大元帥陛下万歳　皇后陛下万歳　皇太子殿下万歳　大日本帝國万歳

(三十三) 天候一覽表

第一表　明治廿六年九月　天候一覽表　於占守穴居内

日次	天候	風位	強弱	寒暖度數	摘要
一日	金曜	正西	輕風	六十度	
二日	土曜	陰雨	正西	輕風	六十度
三日	日曜	快晴	正西	微風	六十一度
四日	月曜	快晴	正西	微風	六十度
五日	火曜	正南	輕風	六十度	夕刻より陰霧塩て降雨
六日	水曜	強雨	正南	烈風	五十度
七日	木曜	快晴	正西	輕風	五十七度
八日	金曜	正西	輕風	五十七度	
九日	土曜	快晴	正西	輕風	五十六度
十日	日曜	正西	輕風	五十二度	
十一日	月曜	晴	正西	強風	五十六度
十二日	火曜	快晴	正西	輕風	五十七度
十三日	水曜	快晴	正西	輕風	五十四度
十四日	木曜	陰霧	正東	輕風	五十三度
十五日	金曜	快晴	正東	微風	七十三度 夕刻より陰霧
十六日	土曜	強雨	正東	烈風	五十二度
十七日	日曜	陰雨	正南	輕風	五十五度
十八日	月曜	晴	正西	烈風	五十三度
十九日	火曜	快晴	正西	強風	五十三度
二十日	水曜	晴	正西	強風	五十三度
二十一日	木曜	晴朗	正西	微風	五十五度
二十二日	金曜	陰霧晦冥	正東	強風	五十三度
二十三日	土曜	細雨	正南	輕風	五十四度
二十四日	日曜	晴	正南	輕風	五十五度
二十五日	月曜	晴	正西	強風	五十四度
二十六日	火曜		西南	微風	五十三度

木夜暴風雨英

密城帆船抜錨蘭洋へ向け出航

密城帆船(二本檣)一隻片岡灣へ入灣

廿七日	水	曇	正東微風	五十四度
廿八日	木	曇	南西微風	五十六度
廿九日	金	曇	正東强風	五十四度
三十日	土	快晴	正西微風	五十五度

備考 一、天候及び風位强弱は日出より日没迄の現象を記す但一晝夜に於ける變候は摘要中に記入す

二、寒暖計は華氏にして正午を記す

三、風力は最大颶風を十二、無風を零と定む故に颶風は十二、暴烈風は十一、十、强風は九、八、七、輕風は六、五、四、微風は三、二、一、無風は零とす

第二表 明治廿六年十月 天候一覽表 於占守穴居內

日次	七曜	天候	風位强弱	寒暖度數	摘要
一日	日	曇	正西强風	五十三度	
三日	火	曇	正西輕風	五十三度	正午より晴
五日	木	雨、晴	正北輕風	五十三度	午前陰雨午后晴
七日	土	快晴	正北輕風	五十三度	前日の漁獵船柏原に投錨
八日	日	晴	正北强風	五十三度	
十日	月	曇	正西微風	五十四度	
二日	水	微雨	正西輕風	五十二度	正午より南西强風
四日	木	晴雨、	正北强風	五十二度	外國漁獵船一隻占守岬を通過せり
六日	金	晴	正南强風	五十六度	
八日	水	曇	正南强風	五十六度	
十日	月	晴	正北强風	五十六度	
十二日	木	陰霧晦冥	正南强風	六十六度	
十四日	土	快晴	正東微風	五十九度	正午より南東强風、午后陰雨
十六日	月	晴	正北强風	五十六度	
十八日	水	曇	正南强風	五十六度	
二十日	木	陰霧晦冥	正南强風	六十五度	
二十二日	金	陰霧晦冥	北西强風	五十八度	
二十四日	土	陰雨	北西强風	五十七度	
二十六日	日	晴	正北强風	五十六度	
二十八日	月	陰霧	正南輕風	五十五度	正午より南輕風
三十日	火	快晴	正北微風	六十七度	
三十二日	水	陰霧晦冥	南東輕風	六十五度	
三十四日	金	陰霧晦冥	北西强風	五十八度	
三十六日	日	陰雨	北西强風	五十七度	
三十八日	月	晴	正北强風	五十六度	
四十日	火	晴	正北强風	五十三度	本日南東大洋へ向け獵漁航走せり
四十二日	水	陰霧晦冥	正南强風	六十六度	
四十四日	土	快晴	正東微風	五十九度	正午より南東强風、午后陰雨
四十六日	日	曇	西南輕風	五十六度	正午より晴
四十八日	月	快晴	正北微風	五十六度	
四十九日	火	曇	正西輕風	五十六度	
五十一日	水	曇	南西微風	五十六度	
五十三日	木	曇	正西輕風	五十四度	
五十五日	金	曇	正西輕風	五十四度	
五十七日	土	晴	西南烈風	五十六度	正午より正西烈風に變ず
五十九日	日	晴	正西輕風	五十四度	正午より曇時々降雪
六十一日	月	快晴	正北微風	五十六度	
六十三日	火	快晴	正北微風	六十七度	
六十五日	水	曇	正西輕風	五十二度	時々降雪

日次	曜日	天候	風位	寒暖度數	摘要
廿七日	金	快晴	正南微風	五十八度	
廿九日	日	晴、雨	正南輕風	五十六度	正午より陰雨
卅一日	火	雨霰	正西輕風	五十六度	

備考　第一表と同じ

第三表　明治廿六年十一月　天候一覽表　於占守穴居内

日次	曜日	天候	風位	寒暖度數	摘要
一日	水	寒曇	正西強風	四十二度	初降雪
三日	金	晴	正西輕風	五十六度	時々霧雪、天長節の佳辰を祝す
五日	日	快晴	正西強風	五十度	
七日	火	雨、雪	正東強風	四十四度	
九日	木	快晴	正東微風	五十九度	
十一日	土	強雨	東南強風	四十七度	
廿八日	土	陰雨	正南輕風	五十六度	
三十日	月	雨霰	正西強風	五十七度	
四日	火	晴	正北輕風	四十八度	
六日	木	曇	正北強風	五十四度	
八日	土	曇	西北強風	四十度	時々霧雪
十二日	月	曇	正西微風	四十二度	時々霧雪
廿二日	水	曇	正西強風	三十八度	
廿四日	金	曇	東南微風	四十一度	
廿六日	日	快晴	正南微風	五十三度	
廿八日	火	降雪	正北強風	四十六度	
三十日	木	降雪	西北強風	三十八度	

日次	曜日	天候	風位	寒暖度數	摘要
三日	月	曇	東南強風	五十四度	
五日	水	曇	正北強風	五十度	
七日	金	曇	正北輕風	六十三度	
九日	日	晴	正北強風	四十四度	
十一日	火	曇	正西微風	四十二度	正午より正北強風、霰を降らす
廿三日	木	曇	正西強風	四十度	新嘗祭典を擧ぐ
廿五日	土	快晴	正南微風	五十七度	
廿七日	月	降雪	西北強風	四十八度	
廿九日	水	降雪	西北強風	四十度	

備考　第二表に同じ

第四表　明治廿六年十二月　天候一覽表　於占守穴居內

日次	天候	風位強風	寒暖度數摘要
一日	金曜 快晴	正西輕風	內五十六度
三日	日曜 降雪	正北強風	同四十二度
五日	火曜 曇	正北輕風	同五十度
七日	水曜 降雪	西南強風	同四十六度
九日	土曜 曇	東南輕風	外三十二度
十一日	月曜 晴	正南輕風	同四十度
十三日	水曜 曇	西北強風	同三十度
十五日	金曜 晴	西北強風	同三十度
十七日	日曜 曇	東南輕風	同三十六度
十九日	火曜 曇	西北輕風	同三十四度
廿一日	水曜 曇	正西輕風	同二十八度
廿三日	土曜 快晴	正西微風	外二十六度
廿五日	月曜 吹雪	東北強風	同二十度
廿七日	水曜 晴	正西強風	內三十四度
廿九日	金曜 晴	西北強風	外二十二度
卅一日	日曜 吹雪	西北強風	內三十六度

備考　第三表に同じ

第五表　明治廿七年一月　天候一覽表　於占守穴居內

日次	天候	風位強弱	寒暖度數摘要
二日	土曜 降雪	正東輕風	內五十四度
四日	月曜 曇	東北輕風	同四十四度
六日	水曜 快晴	西南微風	同五十二度
八日	金曜 曇	東南微風	外三十五度
十日	日曜 曇	正南輕風	同三十二度
十二日	火曜 快晴	正南微風	同三十七度
十四日	水曜 降雪	西北強風	同三十度
十六日	土曜 曇	西北輕風	同三十四度
十八日	月曜 曇	西北強風	同三十一度
二十日	水曜 降雪	西北強風	同二十八度 大吹雪
廿二日	金曜 晴	正西強風	內四十度
廿四日	日曜 曇	正西微風	同廿五度
廿六日	火曜 曇	西北強風	同二十度
廿八日	水曜 降雪	西北輕風	外三十二度
三十日	土曜 吹雪	西北強風	內三十六度

三、寒暖度數區畫中度數の右にある內、外の記號は內は審內外は審外とす

日次	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
七曜				
一日 月	曇	西北輕風	内四十二度	四方拜をなす
二日 火	曇	西北微風	内五十度	
三日 水	曇	西北微風	同四十二度	
四日 木	曇	西南微風	外三十二度	
五日 金	快晴	東南輕風		
六日 土	快晴	西南微風	同三十四度	
七日 日	曇	西北微風	内四十二度	
八日 月	曇	西北微風	内四十二度	
九日 火	快晴	西北輕風	外二十八度	
十日 水	曇	東北輕風	外二十八度	
十一日 木	曇	東北輕風	外二十八度	
十二日 金	曇	東北輕風	同二十八度	
十三日 土	霧雪	正東輕風	同三十二度	
十四日 日	霧雪	正東輕風	同三十二度	
十五日 月	曇	正東強風	同二十七度	
十六日 火	快晴	正東輕風	同二十七度	
十七日 水	吹雪	正北烈風	同二十度	
十八日 木	吹雪	正北烈風	同二十度	
十九日 金	快晴	東南輕風	同十六度	
二十日 土	降雪	西北強風	同二十度	
二十一日 日	降雪	東南輕風	同二十度	
二十二日 月	吹雪	西北強風	同十八度	
二十三日 火	曇	西北強風	同十六度	
二十四日 水	吹雪	東北烈風	同十八度	
二十五日 木	曇	東北輕風	同三十四度	
二十六日 金	曇	東北輕風	同三十四度	正午より吹雪
二十七日 土	吹雪	東北烈風	同二十六度	
二十八日 日	曇	東北烈風	同二十六度	
二十九日 月	快晴	東北微風	同五十四度	午前八時十六度午後四時二十二度正午より霧雪
三十日 火	快晴	西北微風	同三十度	午後西南輕風曇

備考 第四表に同じ

第六表 明治廿七年二月 天候一覽表

於占守穴居内

日次	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
七曜				
一日 木	快晴	東南微風	外四十度	正午日光直射の爲め七十度に昇る午后二時より水銀沒す
二日 金	晴	西北強風	外二十四度	
三日 土	半晴	西北輕風	同二十度	
四日 日	快晴	西北輕風	同二十四度	

五日	月	快晴	西北輕風	同二十六度
七日	水	曇	東北輕風	同十八度
九日	金	大吹雪	東南強風	同二十四度
十一日	日	吹雪	西北烈風	同二十四度
十三日	火	大吹雪	西北強風	同二十度
十五日	木	吹雪	西北輕風	同二十六度
十七日	土	吹雪	東南強風	同二十度
十九日	月	曇	東北輕風	同二十度
廿一日	水	吹雪	東北強風	同二十六度
廿三日	金	大吹雪	東南烈風	同三十五度

正午より霏雪
正午より西北輕風六日に同じ
紀元節に付土窖内にて遙拜式を擧ぐ
六日に同じ
正午より東南輕風六日に全じ
午后西北烈風六日に全じ
午後東北強風、吹雪
六日に同じ
雪を降らす

六日	火	大吹雪	西北烈風	同二十四度
八日	木	快晴	東南輕風	同二十度
十日	土	大吹雪	東南烈風	同二十八度
十二日	月	晴	西北強風	外二十二度
十四日	水	吹雪	正西強風	同二十度
十六日	金	大吹雪	正北強風	同十八度
十八日	日	晴	正西輕風	同二十度
二十日	火	吹雪	東北強風	同二十六度
二十二日	木	大吹雪	東北強風	同三十度
二十四日	土	大吹雪	東南烈風	同三十六度

土窖内點燈終日暗居せり
正午より西北烈風六日に同じ
海中一帯氷結雪徒渉せり
六日に同じ
午后より東南強風六日に全じ
六日に同じ
雪を降らす

廿五日	日	曇	東南烈風	同三十八度
廿七日	火	晴	東南輕風	同三十二度

備考 第五表に同じ

第七表 明治廿七年三月 天候一覽表

於占守穴居内

廿六日	月	半晴	東南強風	同三十二度
廿八日	水	曇	正西輕風	同三十四度

一次日	七曜	天候	風位強弱	寒暖度數
一日	木	曇	西北強風	外三十四度
三日	土	曇	西北輕風	同三十二度
五日	月	快晴	東北微風	同二十六度
七日	水	晴	西北輕風	同二十八度
九日	金	吹雪	西北強風	同十六度
十一日	日	晴	西北強風	同二十六度
十三日	火	快晴	西北強風	同三十二度

午前九時頃迄水銀隱れて現はれず
午後時々吹雪

二次日	七曜	天候	風位強弱	寒暖度數
二日	金	吹雪	西北烈風	外二十八度
四日	日	晴	西北輕風	同三十度
六日	火	快晴	東北微風	同三十八度
八日	木	吹雪	西北強風	同二十六度
十日	土	快晴	西北輕風	同三十九度
十二日	月	吹雪	東南強風	同二十四度
十四日	水	吹雪	西北強風	同三十度

夕刻より吹雪

日		天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
十五日	木	晴	東南輕風	同四十二度	午后正北輕風時々吹雪
十七日	土	晴	正北烈風	同二十度	
十九日	月	大吹雪	東南強風	同二十八度	
廿一日	水	大吹雪	西北強風	同二十四度	
廿三日	金	曇	西北輕風	同四十度	
廿五日	日	晴	正北強風	同三十六度	
廿七日	火	曇	西北烈風	同二十六度	
廿九日	木	快晴	西北輕風	同四十度	本日寒外にバロメートル製置す午后正南輕風
卅一日	土	大吹雪	東南強風	同三十四度	
十六日	金	曇	西北強風	同三十五度	正午より大吹雪
十八日	日	快晴	西北微風	同四十度	
十二日	火	快晴	東南輕風	同四十度	
廿二日	木	大吹雪	西北強風	同二十度	
廿四日	土	快晴	正北輕風	同四十六度	
廿六日	月	曇	正北烈風	同三十度	
廿八日	水	晴	正北強風	同二十八度	
三十日	金	曇	正南強風	同三十二度	正午より大吹雪

備考　第六表に同じ　バロメートルは正午を記す

第八表　明治廿七年四月　天候一覽表

於占守穴居内

日		天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	次曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
二日	月	吹雪	東南輕風	外三十五度	本日始て海霧來る
三日	火	曇	東南輕風	同四十度	
四日	水	曇	西北輕風	同四十度	海霧
五日	木	薄霧	西北輕風	同四十四度	正午より東南輕風
六日	金	薄霧	東南輕風	同三十五度	
七日	土	大吹雪	東南強風	同三十八度	
八日	日	薄霧	東南強風	同三十八度	
九日	月	薄霧	東南輕風	同三十七度	本日大干潮七尺餘に及ぶ
十日	火	薄霧	正北輕風	同三十七度	同上
十一日	水	濃霧	正西輕風	同三十五度	同上
十二日	木	薄霧	東南輕風	同三十八度	午后四時頃より霧雪大干潮五尺餘
十四日	土	快晴	西北微風	同四十二度	全上四尺餘夕刻より東南微風
十六日	月	曇	西北輕風	同三十七度	同上三十、五
十八日	水	曇	東南輕風	同三十五度	同上三十、二時々霧雪
十日	日	快晴	西北輕風	同四十度	バローメートル三十、六
十三日	金	快晴	西北輕風	同四十度	同上五尺餘
十五日	日	快晴	西北輕風	同四十度	
十七日	火	曇	西北輕風	同三十八度	

十九日	木曇	東南輕風	同三十六度	同上三十、四	時々霧雪
廿日	土曇	西北强風	同三十五度	同上	大干潮四尺餘
廿一日	日晴	西北强風	同三十八度	同上	三十、六
廿二日	月晴	西北强風	同三十五度	同上	大干潮五尺
廿三日	水快晴	西北强風	同四十度	同上	夕刻より吹雪
廿四日	金快晴	東南輕風	同三十二度	同上	二十九、八
廿五日	日晴	西北强風			

備考 第七表に同じ

第九表 明治廿七年五月 天候一覽表 於占守穴居內

日次		天候	風位强弱	寒暖度數	摘要
一日	火	大吹雪	西北强風	外三十二度	バロメートル二十九、五
二日	水	晴	西北烈風	外三十五度	午后東南輕風バロメートル三十、〇
三日	木	霧雪	西北强風	同三十六度	
四日	金	晴	東南强風	同五十度	バロメートル三十、一
五日	土	晴	東南輕風	同四十八度	全上三十、五 大干潮五尺餘
六日	日	快晴	東南輕風	同四十八度	全上三十、一 時々霧雪
七日	月	曇	東南强風	同三十六度	全上三十、四 時々霧雪
八日	火	曇	東南輕風	同三十六度	同上三十、五 同六尺餘
九日	木	晴	東南强風	同三十六度	同三十、六 同六尺餘
十日	金	霧雪	西北輕風	同三十四度	同上三十、二 分一
十一日	日	吹雪	西北强風	同三十六度	同上二十九、七、五
十二日	月	吹雪	西北强風	同三十六度	同上二十九、七、二
十三日	土	霧雪	西北强風	同三十四度	同上二十九、九
十四日	木	曇	正東輕風	同四十度	全上三十、四 大干潮五尺餘
十五日	水	晴	西北强風	同三十八度	同上二十九、九、七、五 正北烈風
十六日	木	晴	西北强風	同三十八度	同上二十九、九、二
十七日	金	濃霧	正北輕風	同三十六度	午より正北烈風
十八日	土	晴	正北烈風	同三十八度	同上二十九、七、五
十九日	日	晴	正北强風	同三十八度	同上二十九、
廿日	月	曇	正北輕風	同三十六度	同上二十九、七、八
廿一日	火	霧雪	東北輕風	同四十度	同上二十九、七
廿二日	水	霧雪	東南輕風	同三十八度	同上二十九、五、五

備考　第八表に同じ　第十表　明治廿七年六月　天候一覽表

於占守穴居内

日次	七曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
廿五日	金	快晴	正北烈風	同四十度	同上二十九、七
廿六日	土	晴	正北強風	同四十二度	同上二十九、八、八
廿七日	日	曇	正北微風	同四十八度	同上二十九、九、八
廿八日	月	濃霧	正北輕風	同四十六度	同上三十、五
廿九日	火	曇	西北強風	同四十二度	同上二十九、九
卅一日	木	濃霧	正南輕風	同四十二度	同上二十九、
一日	金	濃霧	東南強風	外四十二度	バロメートル二十九、九、五
二日	土	曇	正北輕風	外四十二度	同上二十九、九、五
三日	日	曇	西北輕風	同四十六度	同上二十九、九、五初降雨
四日	月	濃霧	正南輕風	同四十八度	同上二十九、九正午より晴
五日	火	降雨	正南輕風	同五十二度	同上二十九、五、五正午より薄霧夕刻晴
六日	水	降雨	正北微風	同四十二度	同上二十九、二、一正午より細雨
七日	木	降雨	東北輕風	同四十二度	同上二十九、七午后正西輕風
八日	金	晴	正南輕風	同五十度	
九日	土	薄霧	正南輕風	同四十一度	
十日	水	晴	西北強風	同四十六度	同上二十九、九夕刻より薄霧
十一日	月	濃霧	正南輕風	同四十二度	同上二十九、五、五午后強雨
十二日	火	細雨	東南輕風	同四十度	同上二十九、九、四、五夕刻晴
十三日	水	快晴	正北強風	同四十六度	同上二十九、九、五
十四日	木	薄霧	正南輕風	同四十二度	同上二十九、九、四、五
十五日	金	薄霧	正南輕風	同五十四度	同上三十、〇五正午より薄霧
十六日	土	晴	正南強風	同五十四度	同上二十九、五、五正午より西北強風晴
十七日	日	曇	西南烈風	同五十度	
十八日	月	細雨	正南輕風	同五十度	
十九日	火	晴	正南輕風	同五十六度	同上二十九、七、二
廿日	水	薄霧	正南輕風	同四十六度	同上三十、一正午より快晴
廿一日	木	薄霧	正南輕風	同四十六度	
廿二日	金	薄霧	西北輕風	同四十六度	同上三十、〇
廿三日	土	薄霧	西南輕風	同六十度	
廿四日	日	曇	西南微風	同六十度	同上二十九、九
廿五日	月	快晴	西北輕風	同五十八度	同上二十九、七、五
廿六日	火	快晴	西南輕風	同六十八度	同上二十九、八
廿七日	水	快晴	西北輕風	同六十五度	同上三十、一、五磐城艦入灣

廿九日 金 濃霧 正南輕風 同四十六度 同上三十、二

三十日 土 濃霧 正南輕風 同四十五度 同上二十九、九

備考 第九表に同じ

第一表（第一期分）

自第一表即明治廿六年九月一日至第十表即明治廿七年六月晦日 天候統計一覽表

種別	年月日	號	年月日	號	年月日	號	年月日	號	年月日	號	年月日	號	合計
晴	明治廿六年九月十四日		同年十月十一日		同年十一月十日		同年十二月九日		明治廿七年一月八日		同年二月十五日		二〇七日
曇	九日		八日		十二日		十三日		十三日		六日		二二日
降雨	五日		八日		四日								二八日
海霧	二日		四日										五八日
降雪			四日		九日		九日		十四日		九日		
寒暖計平均	五十六度		五十六度、零九		四十七度、五		内四十四度、五 外三十七度	内四十三度、四 外二十六度、四	二十五度、九		三十一度、六		
微風	八日		五日		六日		五日	七日	一日		三日		
輕風	十三日		十二日		六日		十二日	十四日	十日		九日		
強風	六日		十三日		十八日		十四日	六日	十一日		十五日		

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要	日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	日	霧雨	西南輕六	外四八	パロメートル二九、九、五薄霧	二日	月	霧雨	正南輕六	外四六	同上二九、九、八濃霧
三日	火	強雨	正南輕五	同四八	同上二九、九、八濃霧	四日	水	強雨	正南輕六	同五〇	
五日	木	強雨	正南輕六	同四九	同上二九、九、三同	六日	金	細雨	正南輕六	同五一	同上三〇、〇六薄霧
七日	土	曇	正南輕五	同五一	同上二九、九、九	八日	日	晴	西北微二	同五二	同上二九、七、二
九日	月	快晴	正北強八	同四九	二九、六、六	十日	火	快晴	西北強八	同四八	二九、七、四
十一日	水	曇	正北強七	同四七	二九、八、一	十二日	木	晴	正南微二	同五六	二九、八、九午后四時より正北強風
十三日	金	快晴	正北輕五	同六四	二九、九、五正午より正南輕風	十四日	土	薄霧	正北輕五	同五四	三〇、〇二正午より半晴

微風 三日 一日 四日 六日 四日 一日 三日 一日

備考 一、表中降雨の部には細雨、陰雨、微雨、強雨。海霧の部には薄霧、濃霧。晴の部には快晴、晴。降雪の部には大吹雪、吹雪、霏雪、霙を含有す

二、一日の内にて午前降雨午後晴又之れに反するときは都て午前の天候を以て算す

第二表（第二期分）

明治廿八年七月 天候一覽表

十五日	日	晴	正北輕五	同五二	三〇、〇二夕刻より濃霧
十七日	火	强雨	正南輕五	同五二	二九、五、〇
十九日	木	薄霧	正北輕四	同五一	二九、三、〇
廿一日	土	晴	正南微一	同六三	二九、七、二朝濃霧夕强雨
廿三日	月	濃霧	正北强七	同五二	二九、七、二
廿五日	水	晴	正北輕六	同六四	二九、八、〇
廿七日	金	晴	正南輕六	同六〇	二九、九、五
廿九日	日	曇	正西輕五	同六六	二九、六、八晴曇不定
卅一日	火	曇	正南輕四	同五四	二九、五、六
十六日	月	薄霧	正南輕六	同五〇	二九、八、五本夜暴雨
十八日	水	降雨	西南强七	同五二	二九、三、六
十二日	金	晴	正北微二	同六〇	二九、四、〇
廿二日	日	薄霧	正北輕五	同五一	二九、六、五夕刻より晴
廿四日	火	曇	正北强七	同五一	二九、七、五夕刻より晴
廿六日	木	晴	正北輕六	同六三	二九、八、〇
廿八日	土	快晴	正南微三	同六三	二九、九、二
三十日	月	晴	正南輕四	同六八	二九、六、三朝夕濃霧

備考　第一期分第十表に同じ寒暖計は本表以下悉皆外部の度數即ち窓外の分を記す

第二表　明治廿七年八月　天候一覽表　（第二期分）

一日	七曜	天候	風位强弱	寒暖度數	摘要
二日	水	細雨	正北强九	五六	二九、七、正午より快晴
三日	金	薄霧	正南强四	五八	二九、六、〇
五日	日	細雨	東南輕六	五六	二九、五、六夕刻より微風
七日	火	細雨	正南强七	五六	二九、六、〇
九日	木	晴	正北輕八	五六	二九、八、二
十一日	土	晴	正南輕六	六二	二九、七、〇
十三日	月	濃霧	正南强七	五六	二九、四、六正午より正北强風
十五日	水	薄霧	正北輕五	五八	二九、八、〇
十七日	金	降雨	正南五	五五	二九、六、六
十八日	土	降雨	正南三	五八	二九、六、六
十四日	木	薄霧	正南五	六一	二九、八、四
十六日	火	薄霧	正北强七	五三	二九、八、八
十二日	日	薄霧	正南强八	五六	二九、四、八
十日	金	薄霧	正南微二	五六	二九、七、二
八日	水	晴	正南强八	五四	二九、六、〇正午より正北强風
六日	月	曇	正北輕六	五六	二九、六、六
四日	土	强雨	正南輕五	五四	二九、七、二夕刻より東南强風雲鳴
二日	木	快晴	正北輕四	五四	二九、六、七午后降雨
一日	七曜	天候	風位强弱	寒暖度數	摘要

十九日	日	降雨	正南四	五五	二九、三、六
廿日	月	晴	正北八	五八	二九、六、一
廿一日	火	細雨	正北六	五四	二九、九、八
廿二日	水	晴	正北五	六三	二九、六、三
廿三日	木	晴	正西八	五二	二九、六、〇
廿四日	金	曇	正南九	五四	二九、九、八
廿五日	土	曇	正南四	六一	二九、九、八
廿六日	日	晴	西南六	六二	二九、九、四
廿七日	月	晴	西北八	五四	二九、六、六
廿八日	火	濃霧	正北八	五二	二九、八、四
廿九日	水	晴	正北四	五五	二九、九、二
卅日	木	晴	正南八	五七	三〇、〇、二

備考 第一表に同じ

第三表 明治廿七年九月 天候一覽表（第二期分）

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	土	曇	正南四	六一	二九、九、八
二日	日	晴	西南六	六二	二九、九、四
三日	月	晴	正北八	五四	二九、六、六
四日	火	晴	正北九	五六	二九、八、五
五日	水	晴	正北九	五五	二九、九、二
六日	木	晴	正北八	六〇	三〇、〇、二
七日	金	晴	正北二	六五	三〇、〇、〇
八日	土	晴	正北八	五四	三〇、〇、五
九日	日	晴	正北八	五五	三〇、一、二
十日	月	濃霧	正北八	五四	三〇、一、六
十一日	火	晴	正南二	六五	三〇、一、〇
十二日	水	降雨	正南六	五六	二九、七、六
十三日	木	晴	正北九	五六	二九、七、八
十四日	金	晴	正北五	五六	二九、八、一
十五日	土	晴	正北九	五七	三〇、〇、九
十六日	日	曇	正西四	五三	三〇、二、二
十七日	月	晴	正北六	五四	三〇、三、〇
十八日	火	細雨	西南六	五四	三〇、一、五
十九日	水	晴	正北七	五五	二九、九、〇
廿日	木	晴	正北九	五四	三〇、〇、九
廿一日	金	晴	西南七	五八	二九、五、八

日次	天候	風位	寒暖度數	摘要
廿三日	晴	正北七	五〇	二九、八、六
廿四日	月晴	西南六	六八	三〇、〇、〇
廿五日	火細雨	西南五	五二	二九、八、八
廿六日	水細雨	正北四	五一	二九、九、六
廿七日	木暴雨	正南六	五二	二九、一、二
廿八日	金強雨	西北一一	五五	二九、五、五
廿九日	土曇	西北九	五二	二九、七、六
十三日	日晴	西北八	四七	二九、八、八

備考 第二表に同じ

第四表 明治廿七年十月 天候一覽表

日次	天候	風位	寒暖度數	摘要
一日	月晴	西北八	五〇	三〇、〇、七
三日	水晴	西南五	五五	二九、九、六
五日	金細雨	正南六	五〇	二九、八、五
七日	日強雨	正西九	四八	二九、五、〇
九日	火晴	正南六	五五	二九、八、五

（第二期分）

日次	天候	風位	寒暖度數	摘要
二日	火晴	西南六	五三	三〇、一、六
四日	木晴	正北九	四八	二九、八、〇
六日	土暴風雨	正南一一	五〇	二九、五、二
八日	月曇	正南六	五五	二九、九、四
十日	水晴	正北九	五〇	三〇、一、〇

日次	天候	風位	寒暖度數	摘要
十一日	木晴	正南三	五三	三〇、一、六
十三日	土晴	正北一一	五三	三〇、一、八
十五日	月強雨	西北九	四二	二九、五、〇
十七日	水雨霰	西北八	四六	二九、七、六
十九日	金細雨	正南五	四六	二九、七、四
廿一日	日曇	西北九	三八	二九、七、一
廿三日	火晴	西北九	四二	二九、六、八
廿五日	木降雨	西北九	四二	二九、二、六
廿七日	土降雪	西北九	三五	三〇、二、八
十二日	金細雨	正北八	四〇	三〇、一、二
十四日	日晴	正西八	五五	三〇、〇、八
十六日	火飛雪	西北九	四二	二九、八、四
十八日	木雨霰	西北六	四二	二九、九、六
十二日	土晴	正南六	四五	二九、一、八
廿二日	月飛雪	西北六	四二	二九、五、八
廿四日	水曇	西南六	四七	二九、九、〇
廿六日	金飛雪	西北九	四〇	二九、八、四
廿八日	日降雪	西北六	三七	三〇、一、八

日	次	曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
廿九日	月		降雪	西北九	三五	二九、八、四
廿一日	水		晴	西北九	四一	三〇、〇、〇

備考　第三表に同じ

第五表　明治廿七年十一月　天候一覽表　（第二期分）

日	次	曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	木		晴	西北八	四四	二九、八、四
三日	土		吹雪	西北一〇	三六	二九、四、二
五日	月		晴	西南六	四九	二九、八、二
七日	水		霙	正東七	三八	二九、七、二
九日	金		降雪	西南五	三八	三〇、三、四
十一日	日		強雨	東南八	三七	二九、六、九
十三日	火		曇	正南六	三九	二九、八、一
三十日	火		降雪	西北九	三三	三〇、一、四
十日	日		吹雪	西北九	三五	二九、四、〇
十二日	月		吹雪	西北九	三五	二九、六、四
十四日	火		大吹雪	西北九	二八	二九、七、六
十六日	水		曇	西南六	四二	三〇、二、二
十八日	木		晴	正北九	四〇	二九、二、二
十九日	金		晴	西北九	四〇	二九、二、二
廿一日	土		吹雪	西北八	二八	二九、七、二
廿三日	日		吹雪	西北八	二五	二九、八、〇
廿五日	月		強雨	西南四	三九	二九、六、六 新嘗祭典を擧ぐ
廿七日	火		曇	西南五	三〇	二九、五、六
廿九日	水		曇	西南四	二八	三〇、〇、〇

備考　第四表に同じ

第六表　明治廿七年十二月　天候一覽表　（第二期分）

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	土	晴	正北九	二二	二九、七、四
三日	月	晴	西南五	二六	三〇、〇、六
五日	水	大霙	正東八	三六	二九、〇、二
七日	金	吹雪	西北八	三三	二九、五、二
九日	日	晴	西北八	二九	二九、七、二
十一日	火	晴	西南四	二九	三〇、一、四
十三日	水	吹雪	西北九	二五	二九、五、〇
十五日	土	半晴	正北八	二二	二九、六、六
十七日	月	吹雪	西北八	一八	二九、七、五
十九日	水	晴	正西六	三四	二九、〇、〇

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
二日	日	飛雪	正北九	二四	二九、七、八
四日	火	曇	南東七	三一	三〇、〇、〇
六日	木	降雪	正西八	三五	二八、九、〇
八日	土	半晴	西北八	三二	二九、七、六
十日	月	半晴	西北九	二九	二九、九、六
十二日	水	曇	西北七	二八	二九、九、七
十四日	金	曇	正南三	二二	二九、四、二
十六日	日	吹雪	西北八	二二	二九、五、二
十八日	火	大吹雪	正南八	三四	二九、五、〇
二十日	木	吹雪	西南七	二七	二九、五、七

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
二十二日	土	吹雪	西北八	一八	二九、三、五
二十四日	日	半晴	西北九	二一	二九、一、九
二十六日	水	晴	西北九	二〇	二九、三、五
二十八日	金	曇	正南七	一八	二九、七、〇
三十日	日	晴	西南八	三一	二九、二、二

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
三十二日	火	晴	西北九	二一	二九、一、一
三十四日	水	吹雪	西北八	二〇	二九、一、六
三十六日	木	吹雪	西北八	二五	二九、五、二
三十八日	土	晴	正南八	三一	二九、一、八
四十日	月	曇	正南七	二六	二九、三、二

備考 第五表に同じ

第七表 明治廿八年一月 天候一覽表 (第二期分)

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	火	晴	正南七	二〇	二九、四、六
三日	木	晴	正南六	二三	二九、八、四
五日	金	曇	正南八	三三	二九、二、〇

五日	土	吹雪	西北八	三〇	二九、四、五
七日	月	晴	正南六	一九	三〇、〇、一
九日	水	晴	西南六	一八	三〇、四、六
十一日	金	曇	正南八	三三	三〇、〇、六
十三日	日	曇	正南七	二六	二九、六、八
十五日	火	吹雪	西南七	二六	二九、五、〇
十七日	木	晴	西南七	二五	二九、八、六
十九日	土	大吹雪	正北九	二四	二八、六、〇
廿一日	月	半晴	西南七	一六	二九、四、六
廿三日	水	晴	正北七	凝結	二九、七、六
廿五日	金	大吹雪	正北九	凝結	二九、六、二
廿七日	日	吹雪	西北九	凝結	二九、八、八
廿九日	火	大吹雪	正南九	三二	二九、一、八
卅一日	木	大吹雪	正東八	二九	二九、三、〇

備考　第六表に同じ

第八表　明治廿八年二月　天候一覽表

日次	曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	金	曇	正北八	二四	二九、二、八
三日	日	大吹雪	東南九	三一	二九、四、二
五日	火	吹雪	正東五	三〇	二九、五、四
七日	木	曇	正東八	三〇	二九、九、〇
九日	土	雪	南東四	二六	二九、九、四
十一日	日	晴	西南六	二八	二九、四、八
十三日	月	晴	正南七	二三	三〇、〇、二
十五日	火	晴	正南七	二三	三〇、二、〇
十七日	木	曇	正南七	二九	三〇、三、八
十九日	土	曇	西北六	二九	二九、八、六
廿一日	日	吹雪	正南八	二八	二八、八、六
廿三日	水	吹雪	西南七	二三	二九、七、〇
廿五日	金	曇	正東七	二一	二九、七、〇
廿七日	日	晴	正北八	一六	二九、二、〇
廿九日	火	晴	正北八	水銀凝結	二九、四、六
卅一日	木	吹雪	正西七	凝結	二九、六、八

（第二期分）

日次	曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
二日	土	晴	東南三	二六	二九、六、〇
四日	月	吹雪	東南八	三二	二九、五、〇
六日	水	吹雪	正東八	三〇	二九、五、四
八日	金	晴	南東三	二八	二九、九、六
十日	日	曇	正東四	三〇	三〇、〇、六

十一日	月	晴	正北七	二七 三〇、一、二
十三日	水	吹雪	北東八	二七 二九、七、〇
十五日	金	大吹雪	正北八	二三 二九、七、〇
十七日	日	大吹雪	正東九	二八 二九、六、二
十九日	火	晴	南東四	二七 二九、八、〇
廿一日	木	吹雪	正南八	二七 二九、〇、二
廿三日	土	曇	正東八	二七 二九、四、六
廿五日	月	吹雪	正東八	二三 二九、三、〇
廿七日	水	晴	正北七	二〇 二九、四、六

備考 第七表に同じ

十二日	火	雪	南東八	二五 二九、九、〇
十四日	木	晴	正北八	二五 二九、八、〇
十六日	土	晴	正北八	一八 三〇、〇、六
十八日	月	吹雪	正北八	二四 二九、二、六
十二日	水	大吹雪	南東九	三〇 二九、〇、四
廿二日	金	吹雪	正東八	二八 二九、〇、四
廿四日	日	晴	西南八	三〇 二九、六、六
廿六日	火	吹雪	正北九	二〇 二九、二、四
廿八日	木	吹雪	正北八	凝結 二九、三、六

第九表 明治廿八年三月 天候一覽表 (第二期分)

日次	曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	金	吹雪	東北八	二四	二九、四、二
三日	日	晴	正南七	二五	二九、五、八
五日	火	晴	正北八	二八	二九、六、〇
七日	木	吹雪	正北八	一九	二九、六、〇
九日	土	吹雪	正北八	凝結	二九、八、〇
十一日	月	吹雪	正北八	凝結	二九、六、四
十三日	水	曇	南東四	二六	二九、二、六
十五日	金	吹雪	正北八	凝結	二九、七、六
十七日	日	晴	正北八	一九	二九、九、六
十九日	火	晴	正北八	二八	二九、六、〇
廿一日	木	吹雪	正北八	一九	二九、六、〇
廿三日	土	吹雪	正北八	凝結	二九、八、〇
廿五日	月	吹雪	正北八	凝結	二九、四、四
廿七日	水	曇	南東四	二六	二九、二、六
廿九日	金	吹雪	正北八	凝結	二九、七、六
十一日	日	晴	正北八	一九	二九、九、六
十三日	月	大吹雪	正東八	二八	二九、五、二
十五日	火	晴	南東七	二八	二九、五、六
十七日	水	吹雪	正北八	一九	二九、六、二
十九日	木	吹雪	正北八	凝結	二九、七、四
廿一日	金	吹雪	正北八	凝結	二九、六、六
廿三日	土	晴	正北八	凝結	二九、九、〇
廿五日	月	吹雪	南東七	一九	二九、七、〇

日	曜	天候	風位	寒暖度數	摘要
十九日	火	吹雪	正北八	一七〇	二九、八、
廿一日	木	晴	正南七	二七〇	三〇、二、
廿三日	土	曇	西南六	三四一	二九、八、
廿五日	月	晴	正北六	二〇六	二九、五、
廿七日	水	吹雪	正北九	一七六	二九、五、
廿九日	金	曇	正南二	二四六	二九、五、
卅一日	日	快晴	正南二	二三〇	二九、九、

備考　第八表に同じ

第十表　明治廿八年四月　天候一覽表

日次	曜	天候	風位	寒暖度數	摘要
一日	月	吹雪	正南八	二九〇	二九、八、
二日	火	吹雪	正北八	一七〇	二九、八、
三日	水	吹雪	正北九	一七六	二九、五、
四日	木	晴	正南七	二七〇	三〇、二、
五日	金	海霧	正北八	三六二	二九、八、
六日	土	海霧	正南九	三四八	二九、七、
七日	日	吹雪	正南九	三一六	二九、六、
八日	月	吹雪	正北九	二五六	三〇、〇、
九日	火	吹雪	正南九	三二六	三〇、一、
十日	木	晴	正北九	二九二	二九、八、
十一日	土	曇	西南八	三五四	二九、九、
十二日	月	吹雪	正東八	三二二	二九、五、
十三日	水	晴	正北六	三二〇	二九、七、
十四日	金	曇	正東八	三三八	三〇、一、
十五日	日	半晴	正東八	三六六	二九、八、

（第二期分）

日次	曜	天候	風位	寒暖度數	摘要
二日	木	晴	正南六	三三〇	三〇、二、
三日	金	吹雪	正南七	三二五	二九、八、
四日	日	吹雪	正北一〇	一九〇	二九、〇、
六日	火	吹雪	正南七	三〇〇	二九、一、
八日	木	晴	正北八	一八〇	二九、八、
十三日	土	晴	正北八	二〇六	二九、七、
十四日	木	曇	正南九	三六〇	九二、八、
十六日	土	海霧	正南九	三四八	二九、七、
十八日	月	吹雪	正北九	二五六	三〇、〇、
十九日	水	大雪	正南九	三五〇	二八、八、
二十日	金	半晴	正西七	三四〇	三〇、〇、
二十四日	日	海霧	正南八	三六〇	二九、九、
二十六日	火	吹雪	正北八	三二二	二九、二、
二十八日	木	曇	正東八	三二〇	三〇、〇、
二十九日	土	曇	正東八	三四四	三〇、一、
二十一日	月	雪	正東六	四〇四	二九、七、

日					
廿三日	火	曇	正東七	三八	二九、九、六
廿五日	木	降雪	正南八	三七	三〇、一、四
廿七日	土	曇	正東八	三六	三〇、二、〇
廿九日	月	曇	正南七	三六	三〇、二、二

備考　第九表に同じ

第十一表　明治廿八年五月　天候一覽表　（第二期分）

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	水	晴	正北八	三六	二九、九、〇
三日	金	曇	正西四	四一	二九、五、〇
五日	日	晴	正西七	三八	二九、五、六
七日	火	曇	西南九	三六	二九、八、四
九日	木	降雨	東南九	三五	二九、九、六
十一日	土	曇	正西七	四七	三〇、〇、〇
十三日	月	濃霧	正南七	四四	二九、八、〇
十五日	水	曇	正南七	四一	二九、五、四
十七日	金	吹雪	正北八	三七	二九、二、二
十九日	日	大吹雪	正南八	三四	二九、三、八
廿一日	火	霙	正南七	三八	二九、三、〇
廿三日	木	大霙	正南八	三八	二八、七、六
廿五日	土	晴	正南六	四五	二九、五、八
廿七日	月	薄霧	正北九	三八	二九、六、四
廿九日	水	曇	正南七	三四	二九、九、六
十三日	火	半晴	正北八	三四	三〇、〇、六
十五日	木	半晴	正西四	三八	二九、六、〇
十七日	土	半晴	正西八	三三	二九、四、〇
十九日	月	曇	西南八	三六	二九、七、六
廿一日	水	薄霧	正西七	三五	三〇、〇、六
廿三日	金	晴	東南七	三八	二九、七、四
廿五日	日	濃霧	西南八	四〇	二九、九、二
廿七日	月	霙	正南六	四八	二九、七、二
廿九日	火	晴	正南六	五〇	三〇、〇、四
十一日	土	曇	正西七	四七	三〇、〇、〇
十三日	月	濃霧	正南七	四四	二九、八、〇
十五日	水	曇	正南七	四一	二九、五、四
十七日	金	吹雪	正北八	三七	二九、二、二
十九日	日	大吹雪	正南八	三四	二九、三、八
廿一日	火	霙	正南七	三八	二九、三、〇
廿三日	木	大霙	正南八	三八	二八、七、六
廿五日	土	晴	正南六	四五	二九、五、八
廿七日	月	薄霧	正北九	三八	二九、六、四
廿九日	水	曇	正南七	三四	二九、九、六
二日	日	濃霧	西南八	四〇	二九、九、二
四日	火	晴	正南六	四八	二九、七、二
六日	水	曇	正南七	三八	二九、三、四
八日	木	薄霧	正北八	三八	二九、三、六
十日	金	晴	正西七	三五	三〇、〇、六
十二日	土	曇	正西四	四〇	二九、五、八
十四日	月	霙	正南七	四〇	二九、一、二
十六日	火	晴	正南六	四八	二九、七、二
十八日	水	吹雪	正南八	三五	二九、二、四
廿日	金	晴	正北八	三八	二九、二、六
廿二日	日	曇	正南六	四四	二九、七、二
廿四日	火	晴	正南六	五〇	三〇、〇、四

廿九日	水	晴	正北八	四四
廿一日	金	曇	正南五	四〇

三〇、〇、
二九、六、

備考　第十表に同じ

第十二表　明治廿八年六月　天候一覽表　（第二期分）

日次	七曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	土	晴	正南六	五二	二九、七、〇
三日	月	晴	西北六	四四	二九、六、〇
五日	水	吹雪	正南七	三九	二九、五、〇
七日	金	細雨	正北四	四二	二九、五、〇
九日	日	半晴	正北八	四三	二九、八、八
十一日	火	晴	正北七	四七	二九、八、〇
十三日	木	半晴	正南七	四八	二九、七、〇

日次	七曜	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
二日	日	晴	正北八	四四	二九、六、六
四日	火	半晴	正北六	四三	二九、六、六
六日	木	曇	正東七	四〇	二九、二、六
八日	土	半晴	正北八	四二	二九、七、〇
十日	月	曇	正北八	四三	二九、八、四
十二日	水	晴	正南八	四八	二九、七、四
十四日	金	薄霧	正南七	四九	二九、六、八

三十日　水　晴　正北九　四〇　二九、七、四

十日	土	細雨	正南六	四六	二九、七、六
十七日	月	曇	西南八	四四	二九、六、八
十九日	水	濃霧	西南七	四五	三〇、〇、二
廿一日	金	強雨	正南八	四一	二九、八、四
廿三日	日	強雨	正南八	四五	二九、八、〇
廿五日	火	晴	正北七	五一	二九、六、二
廿七日	木	強雨	西南八	四六	二九、五、八
廿九日	土	濃霧	正北七	四四	二九、七、四

十日	日	半晴	西南七	五一	二九、七、〇
十八日	火	濃霧	西南八	四五	二九、七、八
十二日	木	濃霧	西南八	四四	三〇、〇、六
廿二日	土	強雨	正南八	四四	二九、六、六
廿四日	月	曇	正南七	四四	二九、七、八
廿六日	水	晴	西南六	五四	二九、五、八
廿八日	金	半晴	西南七	五三	二九、七、四
十三日	日	晴	正北八	四六	二九、六、〇

備考　第十一表に同じ

第十三表　明治廿八年七月　天候一覽表　（第二期分）

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	月	晴	正北八	五一	二九、四、四、
二日	火	半晴	正北九	四九	二九、四、四、
三日	水	曇	正南七	六〇	二九、七、四、
四日	木	曇	正南七	六〇	二九、七、四、
五日	金	降雨	正南八	四五	二九、五、八、
六日	土	降雨	正南七	四八	二九、六、四、
七日	日	曇	正南六	五〇	二九、六、〇、
八日	月	曇	正南六	五〇	二九、六、〇、
九日	火	曇	正南七	五〇	二九、五、六、
十日	水	曇	正南七	五〇	二九、五、六、
十一日	木	濃霧	正南七	四八	二九、七、四、
十二日	金	濃霧	正北六	四八	二九、七、四、
十三日	土	晴	正北八	四五	二九、八、二、
十四日	日	晴	正北八	五二	二九、八、六、
十五日	月	晴	正北八	五四	二九、八、〇、
十六日	火	晴	正北八	五四	二九、八、〇、
十七日	水	半晴	正南六	五六	二九、六、六、
十八日	木	半晴	正南六	五六	二九、六、六、
十九日	金	降雨	正北六	五一	二九、四、六、
二十日	土	降雨	正北六	五一	二九、四、六、
二十一日	日	晴	正北八	五二	二九、八、六、
二十二日	月	晴	正西六	五六	二九、三、二、
二十三日	火	曇	正北六	五八	二九、二、八、
二十四日	水	曇	西北六	五三	二九、四、〇、
二十五日	木	曇	正北七	五六	二九、四、八、
二十六日	金	曇	正北七	五〇	二九、五、〇、
二十七日	土	曇	正北六	五四	二九、四、八、
二十八日	日	晴	正南六	五八	二九、五、四、
二十九日	月	晴	正北七	五九	二九、八、二、
三十日	火	曇	正北八	五七	二九、九、六、
三十一日	水	晴	正北八	五七	二九、九、六、

備考　第十二表に同じ

第十四表　明治廿八年八月　天候一覽表　（第二期分）

日次	曜日	天候	風位強弱	寒暖度數	摘要
一日	木	晴	正西六	五八	三〇、〇、〇、
二日	金	濃霧	正西八	四五	二九、九、〇、
三日	土	曇	正南八	五三	二九、八、〇、
四日	日	曇	正北六	五三	二九、八、〇、

五日	月	曇	正北八	五四 二九、八、〇
七日	水	曇	正南七	五四 二九、九、二
九日	金	晴	正北八	五四 三〇、〇、八
十一日	日	曇	正北八	五〇 三〇、〇、六
十三日	火	晴	正南八	五六 二九、八、六
十五日	木	晴	正北六	五〇 二九、六、〇
十七日	土	雨	正南六	五二 二九、六、〇
十九日	月	晴	正北九	五五 二九、七、八
廿一日	水	晴	正南七	五八 二九、七、八
廿三日	金	晴	正北八	六〇 二九、六、〇
廿五日	日	曇	正南六、	五八 二九、六、六
廿七日	火	薄霧	正南六	五〇 二九、七、〇
廿九日	木、	晴	正北七	五〇 二九、三、〇
卅一日	土	曇	正北八	五〇 二九、六、一
六日	火	薄霧	正南七	五九 二九、八、八
八日	木	半晴二	正南七	五五 三〇、〇、〇
十日	土	晴	正北八	五四 三〇、〇、二
十二日	月	晴	正北八	五四 三〇、〇、一
十四日	水	細雨	正南九	五二 二九、五、六
十六日	金	曇	正南六	六〇 二九、六、〇
十八日	日	濃霧二	正北八	五三 二九、七、〇
二十二日	火	曇	正北六	五三 二九、九、〇
廿四日	水	晴	正南八	五四 二九、六、〇
廿六日	土	暴雨	正南八	五〇 二九、七、〇
廿八日	月	濃霧	正北八	五四 二九、八、八
三十日	水	晴	正北一〇	五一 二九、二、〇
三十三日	金	晴	正北八	五一 二九、五、〇

備考 第十三表に同じ

自第一表即明治廿七年七月一日至第十四表即同廿八年八月末日 天候統計一覽表（第二期分）

種別	年	月	日	合計
晴	明治廿七年七月	八月	十三日	十日
	同上	九月	十日	二十日
	同上	十月	十二日	十二日
	同上	十一月	十三日	十四日
	同上	十二月	十四日	十三日
	同廿八年一月	二月	十一日	八日
	同上	三月	十一日	十一日
	同上	四月	十四日	五日
	同上	五月	十三日	十一日
	同上	六月	十四日	十四日
	同上	七月	十四日	十三日
	同上	八月	十四日	十四日
曇				五日
降雨				八日
濃霧				五日

五日	曇	三日	四日	三日
七日	雨	三日	十日	五日
九日	雨	三日	十日	七日
十一日	雨	三日	十二日	四日
十三日	雨	三日	十二日	九日
十五日	雨	三日	十二日	九日
十七日	雨	一日	一日	一日
十九日	雨	一日	一日	六日
二十一日	雨	一日	一日	六日
二十三日	雨	一日	一日	三日
二十五日	雨	一日	一日	三日
二十七日	雨	一日	一日	五日
二十九日	雨	一日	一日	三日
三十一日	雨	一日	一日	五日
三十三日	雨	一日	一日	五日

降雪	｜	｜	｜	九日	十三日	十四日	十一日	十四日	十七日	十日	六日	一日	｜	｜
寒暖計平均	五十四度四五	五十七度、三	五十五度、八	四十四度、一九	三十五度、八六	二十六度、〇三	十九度七	二十六度、〇三	十八度五一	三十三度、九六	三十九度、四八	四十五度、五六	五十二度、四八	五十三度、五
微風	五日	二日	二日	一日	一日	一日	｜	二日	二日	一日	｜	｜	一日	｜
輕風	二十日	十四日	十一日	十一日	八日	三日	六日	四日	四日	二日	八日	六日	十日	八日
強風	六日	十五日	十六日	十七日	十九日	二十七日	二十五日	二十二日	二十四日	二十七日	二十三日	二十四日	二十日	二十二日
烈風	｜	｜	一日	二日	二日	｜	｜	｜	一日	｜	｜	｜	｜	一日
颶風	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜

備考　第一期分統計表備考に同じ

千島探撿録　畢

明治三十年三月廿五日印刷
明治三十年四月十二日發行

正價金貳拾錢

版權所有
東京圖書出版合資會社

著者　白瀨矗

發行者　東京圖書出版合資會社
代表者　西村寅次郎
東京市日本橋區下槙町十一番地

印刷者　草田長松
東京市京橋區三十間堀壹丁目貳番地

發行所　東京圖書出版合資會社
東京日本橋區下槙町

東京圖書出版合資會社代理店

東京淺草區三好町	聚榮堂	大川錠吉
同　京橋區弓町	三松堂	松邑孫吉
同　日本橋區本材木町	成美堂	河出靜一郎
同　同　通四丁目	東雲堂	西村寅次郎
同　同　通四丁目	同	木田吉太郎
同　同　柳原河岸	學友館	三好守雄
同　京橋區中橋和泉町	盛外堂	奥村金次郎
京都佛光寺烏丸東	東枝律書房	東枝吉兵衛
薩摩鹿兒島仲町	文卉堂	吉田幸兵衛
伊勢四日市南町	吉田屋	伊藤善太郎
同　津地頭領町	崇文堂	豐住謹次郎
美濃岐阜泉町	郁文堂	淺野榮次郎
同　大垣岐阜町	岡安書房	岡安慶介
尾張名古屋本町三丁目	金華堂	川瀨代助
同　名古屋鐵砲町二丁目	玉潤堂	三輪文次郎
同　名古屋門前町二丁目	文昌堂	淺見鉦太郎
三河豐橋吳服町	豐川堂	高須廣治
遠江濱松連尺町	谷島屋	齋藤源三郎
同　見附	中遠日進社	穗積準三
同　掛川	聚文堂	飯塚仙太郎
同　金谷	文化堂	佐塚英一
駿河靜岡傳馬町	喜多川屋	齋藤茂右衛門
同　沼津上土	文林堂	渡邊八重吉
甲斐甲府柳町	柳正堂	大塚源太郎
伊豆三嶋	文正堂	飯田市右衛門
横濱松ヶ枝町	弘集堂	天野保之助
武藏加須町	尙古堂	櫻井爲之助

上總東金	多田屋本店	能勢土岐太郎
下總佐原	正文堂	朝野利兵衛
上野高崎田町	煥乎堂	吉田鐵三郎
下野宇都宮大工町	集英堂	內山港三郎
信濃長野大門町	小桝屋	西澤喜太郎
同 松本町	水翠堂	小松爲吉
同 上諏訪	日新堂	宮阪榮次郎
加賀金澤石浦町	含章堂	宇都宮源平
越前福井佐佳枝中町	日新館	松原榮
越中高岡	學海堂	磯野小兵衛
磐城白河天神町	奥村書店	奥村市右衛門
岩代福島通三	上野屋	齋藤彦太郎
陸前仙臺大町	木文商店	木村文助
渡島函館末廣町	大盛堂	小島千代松

東京圖書出版合資會社發行書目

藤原櫻崖著	○日本用文章	全一冊	正價金廿五錢 郵稅八錢
楓仙子著 安達吟光書 新案	○女用文章	同	正價金廿三錢 郵稅六錢
森岡男也編纂	○記事論說作文軌範	同	正價金十六錢 郵稅六錢
阪春莊編輯	○記事文教科書	同	正價金十八錢 郵稅六錢
法學士淺倉外茂鐵校閲 板東陸藏註解	○民法正解	同	正價金卅五錢 郵稅十錢
諸大家著作	○歷史美談	同	正價金十錢 郵稅二錢
	○修身美談	同	同 上
	○立志美談	同	同 上

東京圖書出版合資會社發行書目

驛原櫻崖著 ○日本用文章	全一冊	正價金廿五錢　郵稅八錢
楓仙子著　安達吟光書 ○新案女用文章	同	正價金廿三錢　郵稅六錢
森岡男也編纂 ○記事論說作文軌範	同	正價金十六錢　郵稅六錢
殷春莊編輯 ○記事文教科書	同	正價金十八錢　郵稅六錢
法學士淺倉外茂鐵校閱　板東陸藏註解 ○民法正解	同	正價金卅五錢　郵稅十錢
諸大家著作 ○歷史美談	同	正價金十錢　郵稅二錢
○修身美談	同	同　上
○立志美談	同	同　上

本社發賣所

東京市下谷區上野櫻木町　上野書院

同　本郷區本郷三丁目　能勢土岐太郎

同　下谷區御徒町　正文堂

同　神田區錦町　換乎堂

同　麹町區大門町　朝野利兵衛

同　同　同　吉田鐵三郎

同　同　同　內山港三郎

同　同　同　西澤喜太郎

同　同　同　小松爲吉

同　同　同　水戸屋

同　同　同　宮阪榮次郎

同　同　同　合資會社

同　同　同　宇都宮源平

同　同　同　日新堂

同　同　同　日新館

同　同　同　松原榮

同　同　同　小兵衛

同　同　同　奥村書店

同　同　同　奥村市右衛門

同　同　同　上野屋

同　同　同　清藤彦太郎

同　同　同　木村文助

同　同　同　小島千代松

同　同　同　大盛堂

○尚武美談　同　上
○少年美談　同　上
○少年教育はなし　同　正價金六錢　郵稅二錢
○少年歷史はなし　同　同　上
○少年學術討論會　麟兒堂主人著　同　同　上
○演說討論三千題　星野恩一著　同　正價金十錢　郵稅二錢
○大日本帝國新圖　東京圖書出版合資會社編　同　正價金卅五錢　郵稅八錢
○當用日記　同　編　同　正價金廿八錢　郵稅八錢
○懷中日記　同　正價金十錢　郵稅四錢

同　○昇校便覽　學生日記　編　同　正價金十錢　郵稅二錢
青森縣師範學校教諭片山熊太郎著　○農談百夜草　全二冊　正價金五十錢　郵稅八錢
沖田南溟編　○今古書畫名家全傳　全一冊　正價金三十錢　郵稅六錢
同　○俳諧發句全集　編　○上卷　蕪門十哲集　○下卷　名家吟詠集　全二冊　正價金二十錢　郵稅六錢
竹內大佐、長岡中佐校閱　厩堂散人著
○軍人必携演習心得　全一冊　正價金八錢　郵稅二錢
遠藤正作著　○在隊在鄉軍人心得　同　正價金十五錢　郵稅四錢
三好守雄著　○劍術教範通解　同　正價金十錢　郵稅二錢
野津大將、伊東中將題字　東京圖書出版合資會社著　○通俗征清戰記　同　正價金卅錢　郵稅十錢

工2Q14

○渡邊華山　白井菊也　加須屋壽賀藏　合著　同　正價金廿錢　郵稅四錢

○千島探檢錄　元報効義會員　陸軍少尉　白瀨亞著　內藤耻叟題詠　有泉龜二郎編　三月中發

○教育和文軌範　中等　高橋熊太郎合著　同

○元寇　湯地丈雄　全一冊　正價金十錢　郵稅二錢

○商事會社員株主心得　朝倉法學士校閱　板東陸藏著　全一冊　近刻

發行所　東京日本橋區下槇町　東京圖書出版合資會社

76
23
Ⓜ

023209-000-1

76-23

千島探検録

白瀬　矗／著

M30

ADC-0046